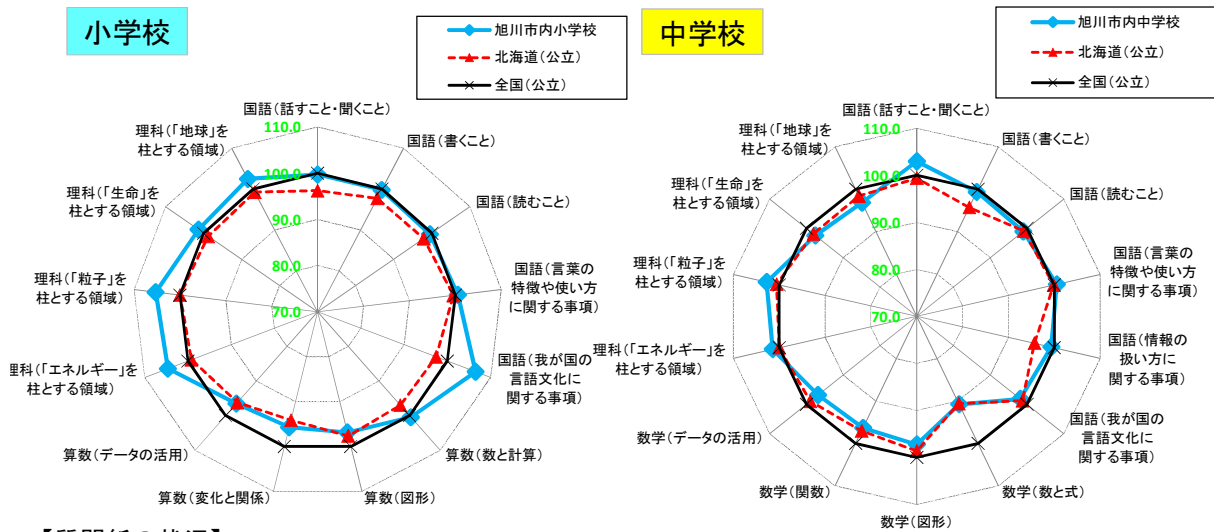


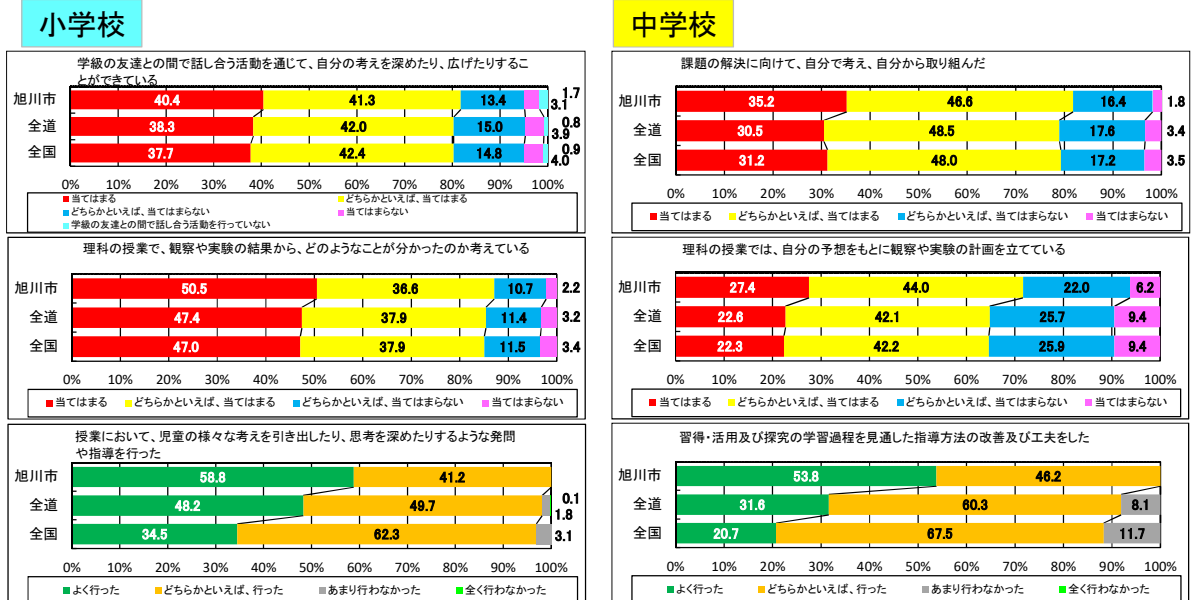
■旭川市内の状況及び学力向上策（小学校数：51校、児童数：2094人）（中学校数：26校、生徒数：2046人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考える活動の充実を図ったことで、理科の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる指導の充実を図ったことで、「エネルギー」及び「粒子」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が全国の割合を上回ったと考えられる。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む生徒が全国の割合を上回ったと考えられる。

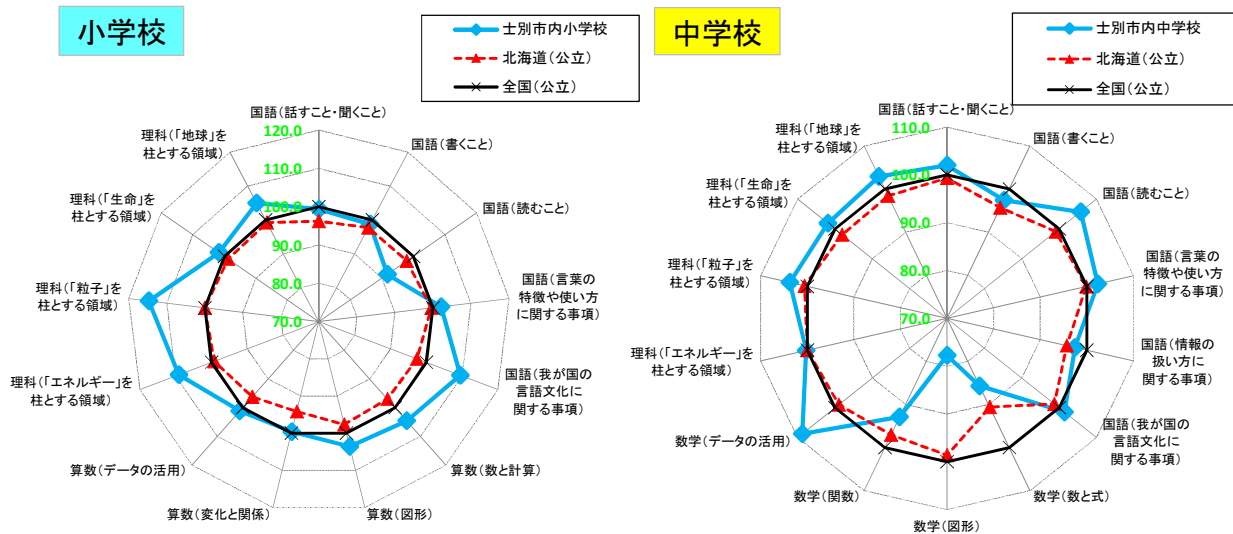
【旭川市の学力向上策】

- ◎ 確かな学力の育成を図る3つの柱である「学びを深める授業づくり」「落ち着いた学級づくり」「望ましい学習習慣づくり」に基づく取組の推進
- ◎ 「確かな学力育成プラン」を踏まえた、各学校における「学力向上ロードマップ」の作成
- ◎ 国語、算数・数学、理科等を担当している教員と市教委指導主事とで構成した授業力向上プロジェクトチームによる全国学力・学習状況調査結果の分析を踏まえた「旭川版 指導の改善策」の作成と各学校・各種研修会等での活用
- ◎ 「授業改善推進チーム」の推進教員による配置校及び連携校の教員への授業改善に向けた継続的な指導の実施
- ◎ 「旭川市小中連携・一貫教育推進プラン」に基づく小中連携・一貫教育の推進
- ◎ 全小・中学校で導入しているオンライン教材を活用した、個に応じた指導の充実

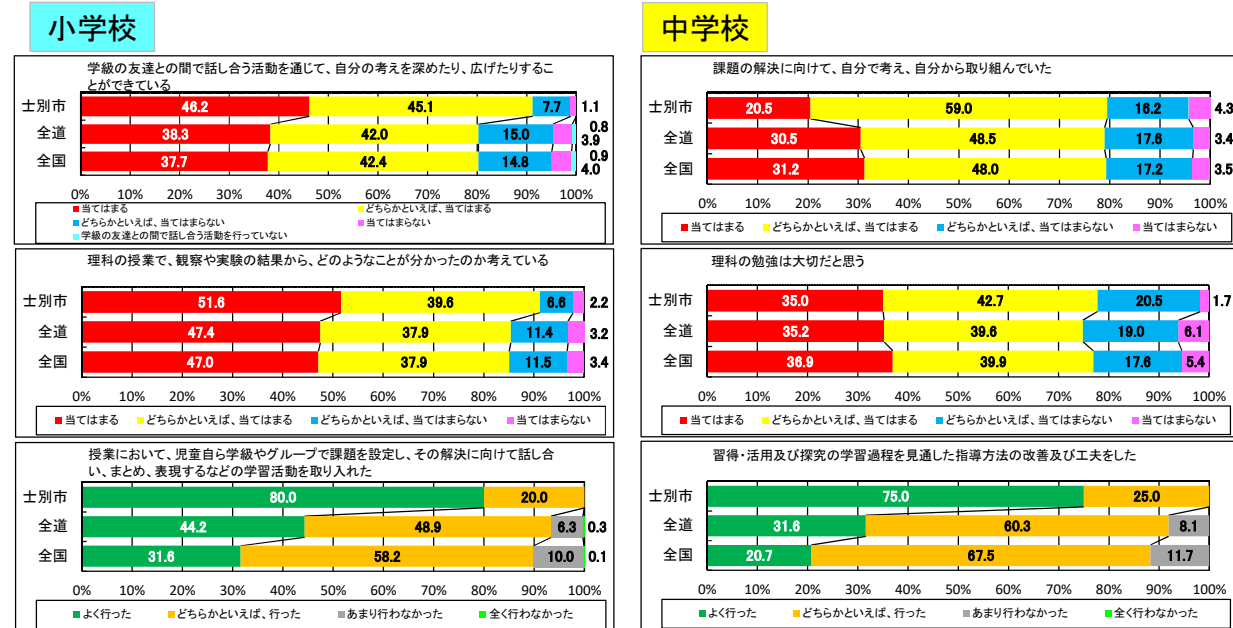
■士別市内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:95人）（中学校数:4校、生徒数:117人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか、分析して解釈する活動の充実を図ったことで、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	理科の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことで、理科の勉強は大切だと思うようになり、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が全国の割合を上回ったと考えられる。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる生徒が全国の割合を上回ったと考えられる。

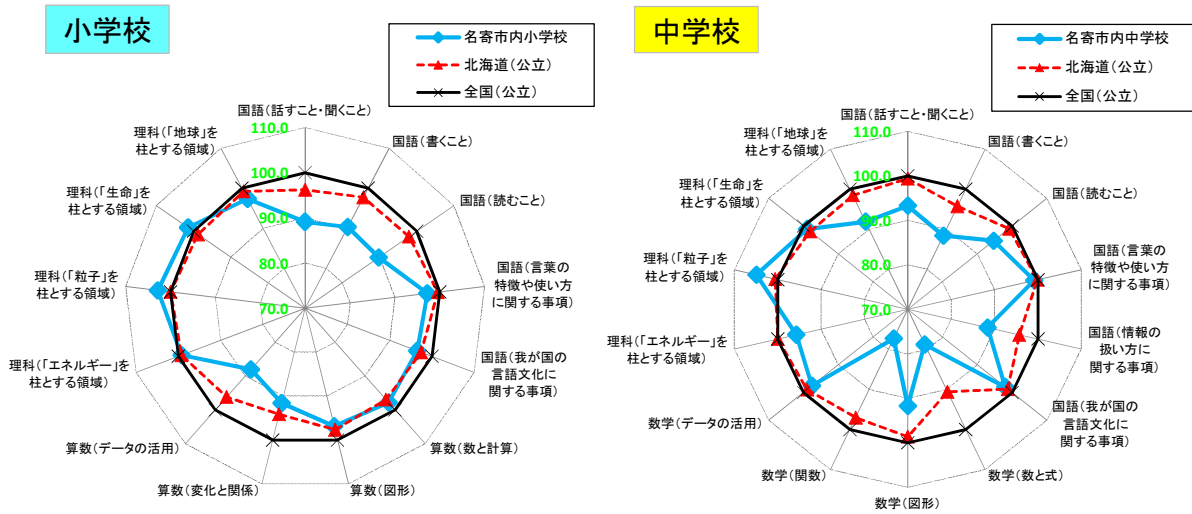
【士別市の学力向上策】

- ◎ 個に応じた家庭学習の課題設定と、習熟度別学習などの個別最適な学習の充実と工夫
- ◎ 市教育委員会の企画による小・中学校教職員対象の研修において、1人1台端末を活用した授業の実践交流を実施
- ◎ 朝や休み時間、放課後における補足的な学習と、長期休業中における発展的・協働的な学習の設定

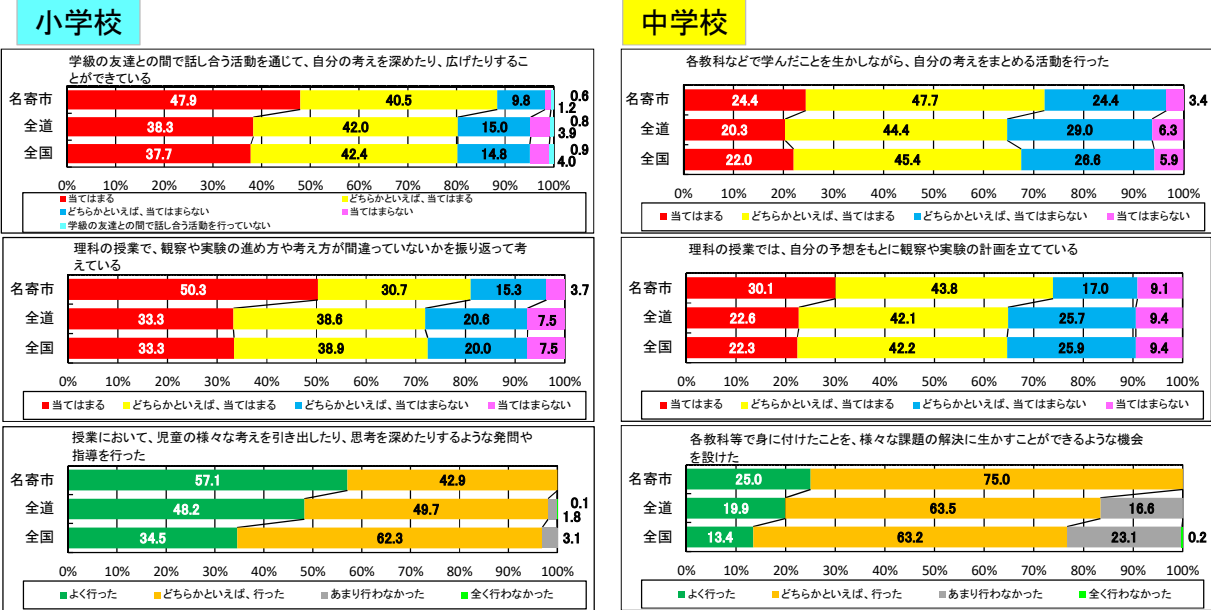
■名寄市内の状況及び学力向上策（小学校数：7校、児童数：161人）（中学校数：4校、生徒数：175人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
理科の授業では、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返る活動の充実を図ったことで、「粒子」「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	理科の授業では、課題を解決するために、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる探究の過程の充実を図ったことで、「粒子」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が全国の割合を上回ったと考えられる。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、主体的に各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめることができている生徒が全国の割合を上回ったと考えられる。

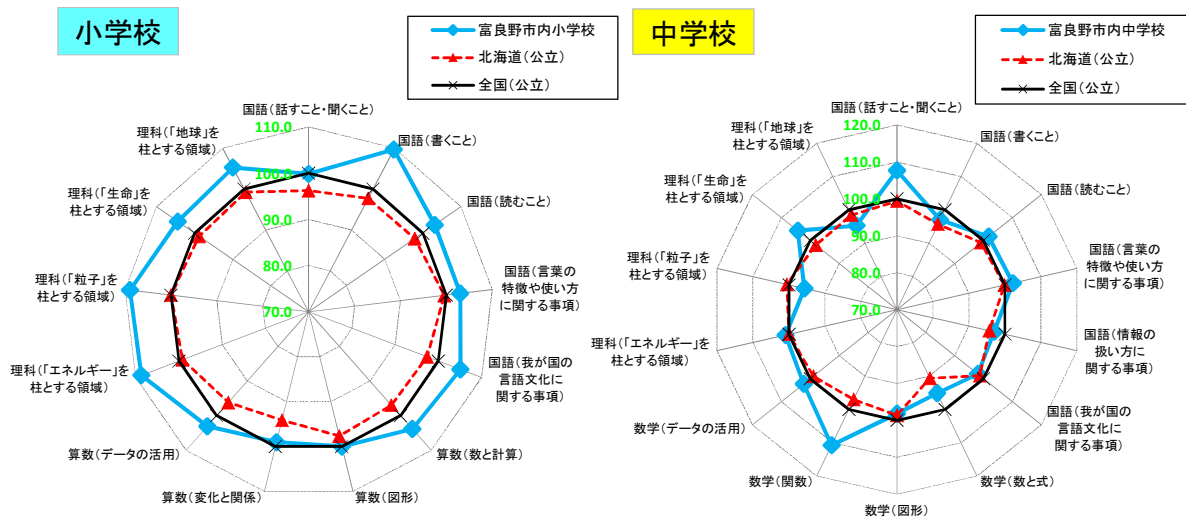
【名寄市の学力向上策】

- ◎ 名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心に、市内小・中学校が一体となり、学ぶ意義を身に付ける授業改善と学年・学級経営の充実の推進
- ◎ 中学校理科教員と加配教員の専科指導による小学校理科の学力向上に向けた小・中学校の連携と取組の推進
- ◎ 名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心に、ICTを日常的に活用した教育活動と「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に資する1人1台端末を活用した指導方法や教材等の工夫・改善に向けた取組の推進

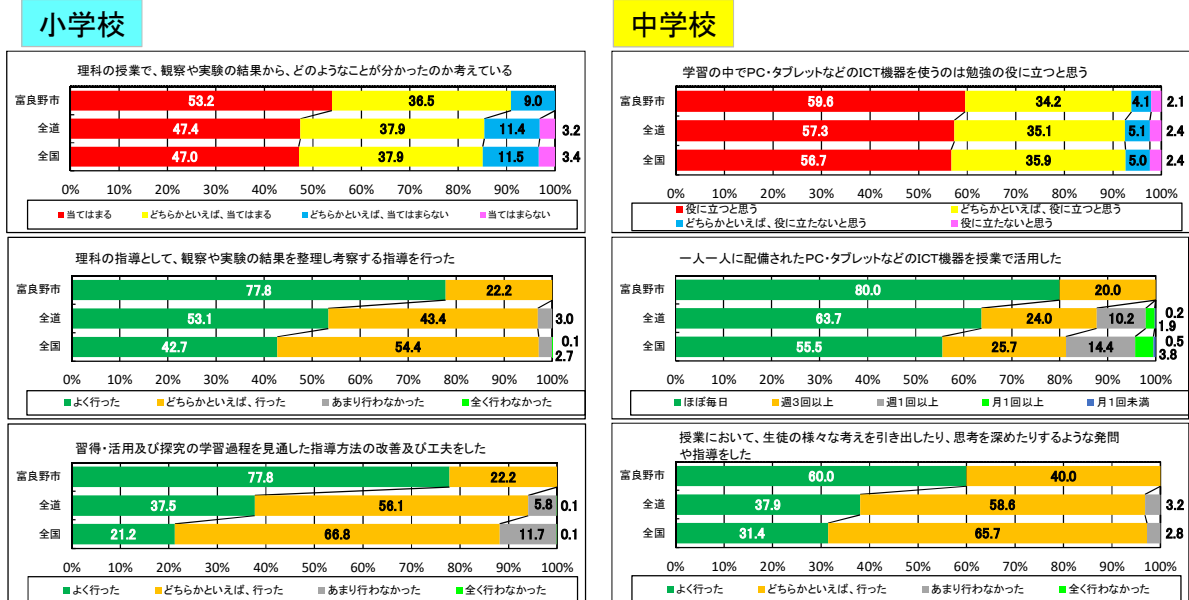
■富良野市内の状況及び学力向上策（小学校数:9校、児童数:155人）（中学校数:5校、生徒数:144人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、授業の充実が図られ、国語及び算数ではほとんどの領域・事項で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>理科の指導として、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、学習活動の充実が図られ、理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、理科の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p>	<p>授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、授業の充実が図られ、国語、数学及び理科では多くの領域・事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、毎日の授業で積極的に活用したことにより、ICT機器を活用した授業の充実が図られ、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。</p>

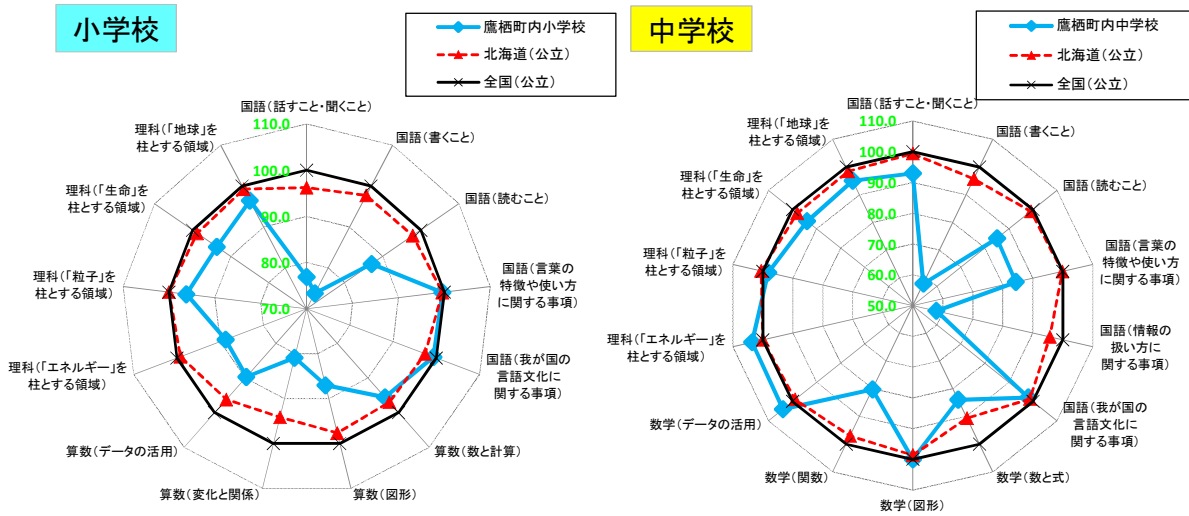
【富良野市の学力向上策】

- ◎ 「富良野市教育振興基本計画」に基づく市内小・中学校、教育委員会が一体となった学力向上の取組の推進
- ◎ 「富良野市学力向上推進プロジェクト」による分析結果・授業改善の方策等を掲載した調査結果概要の作成及び児童生徒の学習状況の改善、家庭や地域の教育力向上に向けたリーフレットの作成
- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果の分析を踏まえた学校改善プランに基づく望ましい生活習慣や学習習慣の推進
- ◎ 長期休業期間の学習サポート等による多様な学習機会の提供及び個に応じたきめ細かな指導の実施
- ◎ 富良野市ICT推進委員会による実践交流、1人1台端末の効果的な活用に向けた授業改善の推進、及び市主催による教職員研修の実施

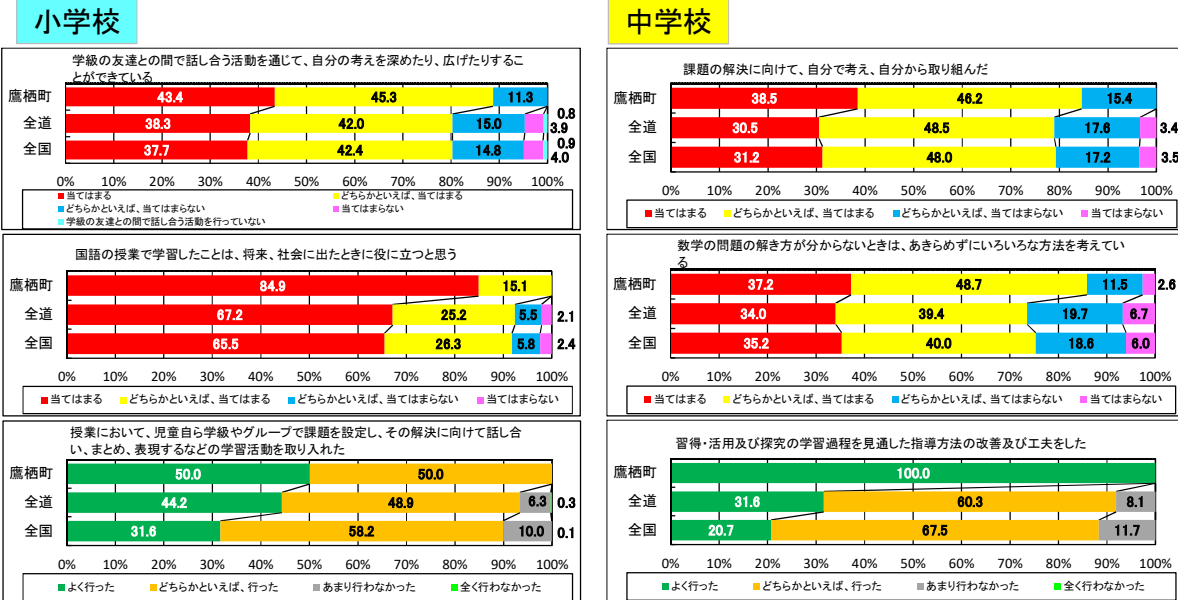
■鷹栖町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:53人）（中学校数:1校、生徒数:78人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする指導の充実を図ったことにより、児童は国語を学習することの重要性や有用性を理解し、知識・技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」において、全国の平均正答率と同等となったと考えられる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童が全国の割合を上回ったと考えられる。</p>	<p>授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができるよう指導の充実を図ったことにより、生徒は数学の問題の解き方が分からないときにも、多様な方法を考えるようになり、「データの活用」領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる生徒が全国の割合を上回ったと考えられる。</p>

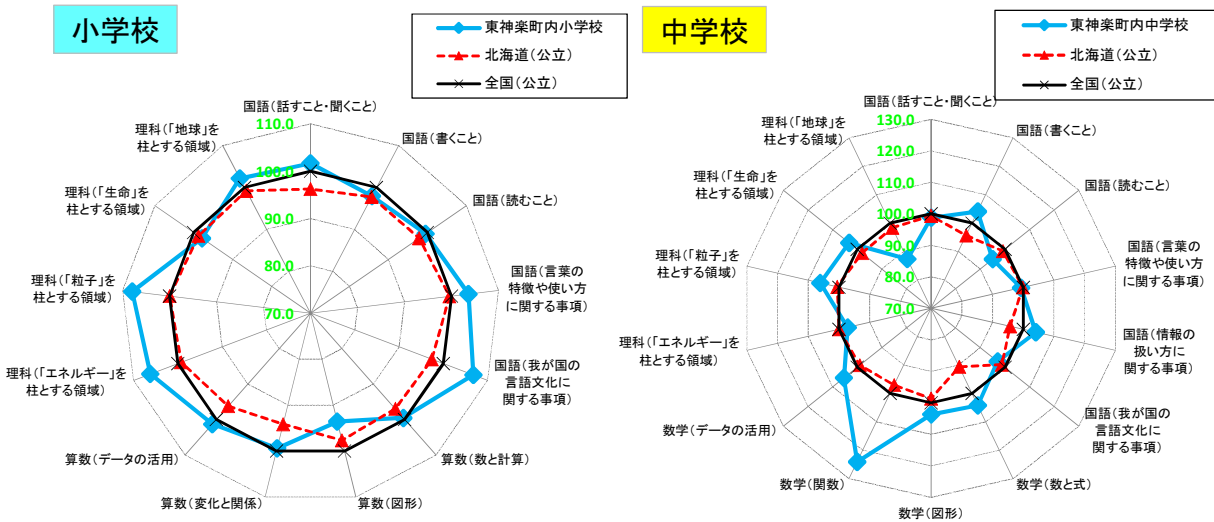
【鷹栖町の学力向上策】

- ◎ 学習指導要領の趣旨を踏まえた積極的・計画的な研修の実施
- ◎ 放課後や休日等における学習機会の提供や習熟度別指導の充実、授業改善推進チーム活用事業を活かした指導改善
- ◎ 英語教育の充実を図る小・中学校の連携（加配教員活用・ALTの増員）
- ◎ 1人1台端末の活用に向けた研修の実施、学習支援ソフトや電子黒板を効果的に活用した学習活動の推進

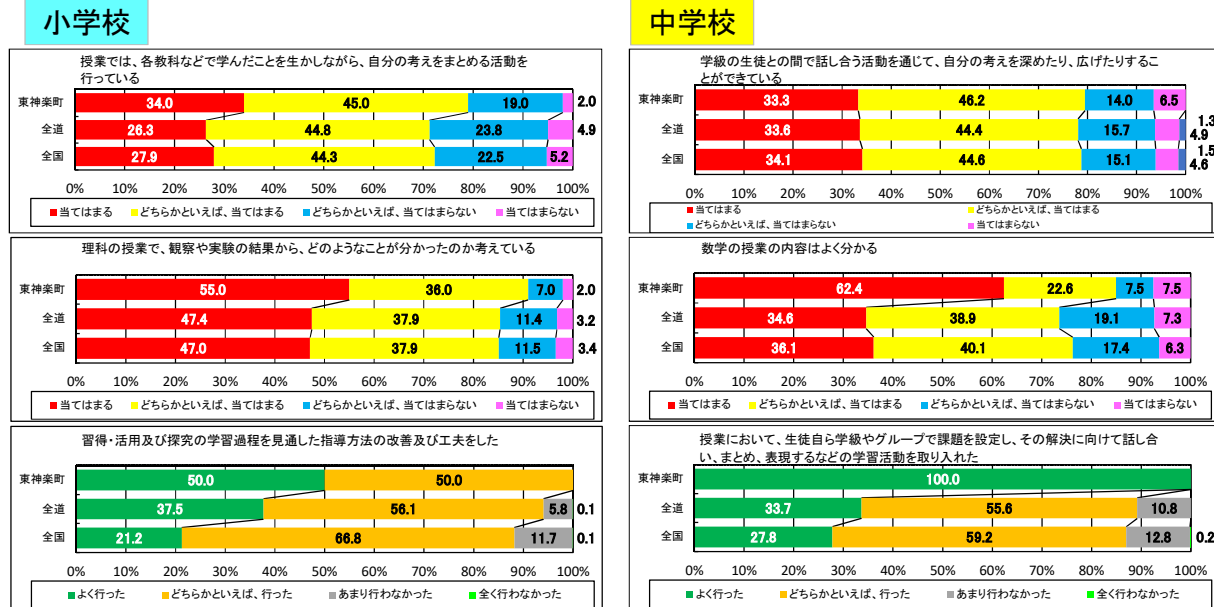
■東神楽町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:101人）（中学校数:1校、生徒数:93人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか、分析して解釈する活動の充実を図ったことで、「エネルギー」「粒子」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめることができている児童が全国の割合を上回ったと考えられる。

中学校

数学の指導として、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことで、数学の授業の内容がよく分かるようになり、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒が全国の割合を上回ったと考えられる。

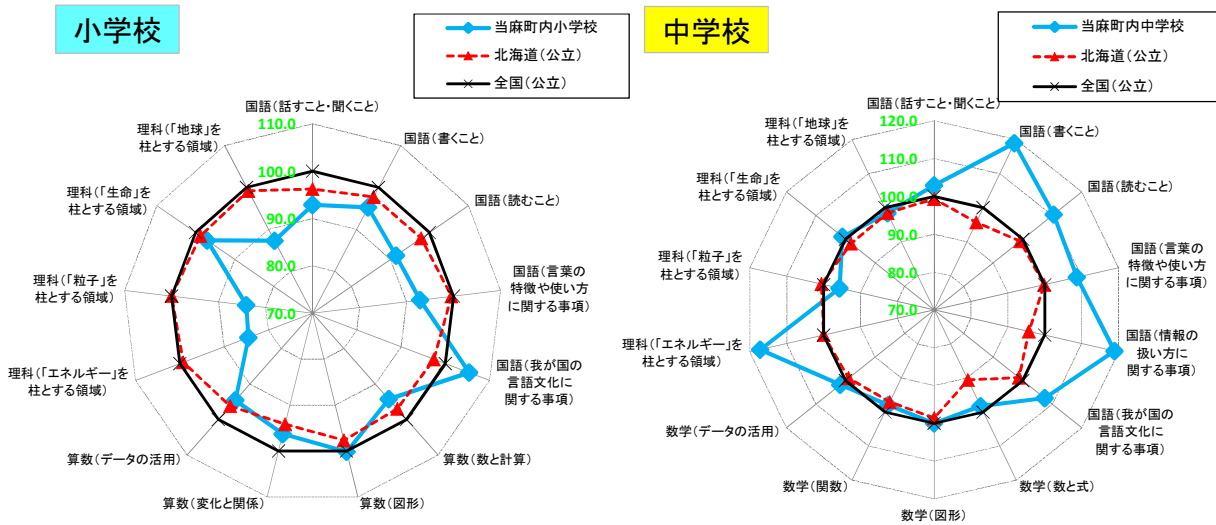
【東神楽町の学力向上策】

- ◎ 東神楽町小中一貫イノベーションプログラム、小中一貫教育推進委員会の9年間を見据えた教育の充実に向けた取組の推進
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用の推進
- ◎ 各学校の状況や規模に応じた小学校高学年における専科指導、習熟度別学習など個に応じた指導の充実

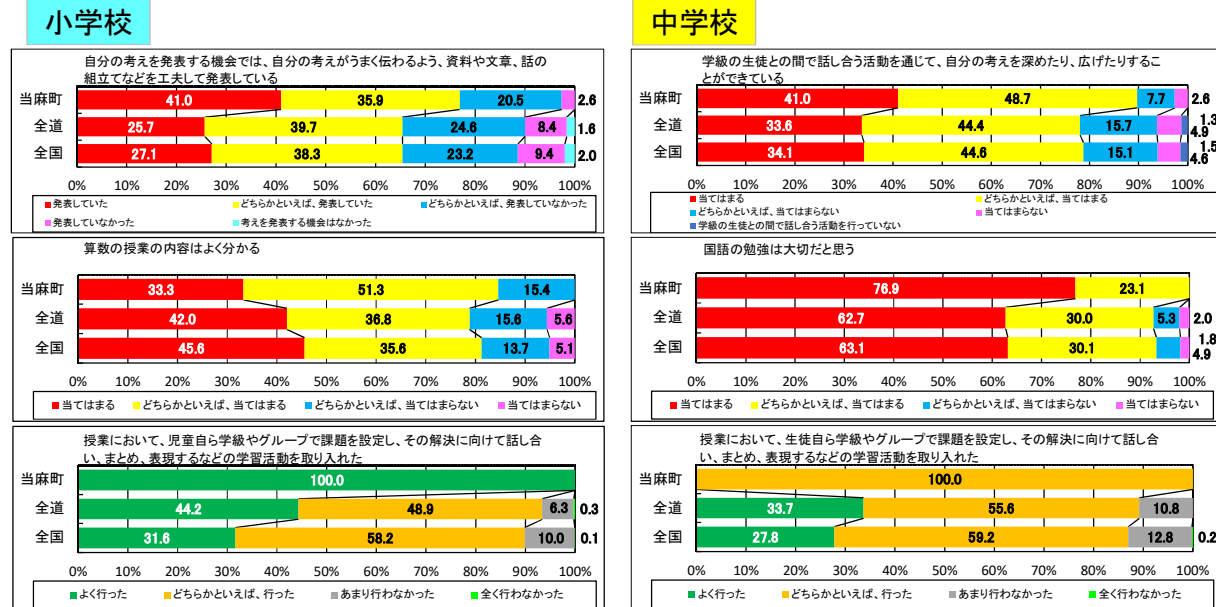
■当麻町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:39人）（中学校数:1校、生徒数:38人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の指導として、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことで、算数の授業の内容はよく分かるようになり、「図形」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、自分の考えを发表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して发表している児童が全国の割合を上回ったと考えられる。

中学校

生徒のよい点や改善点を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたこと、国語の勉強は大切だと思い、主体的に学習に取り組むようになり、国語の全ての領域・事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒が全国の割合を上回ったと考えられる。

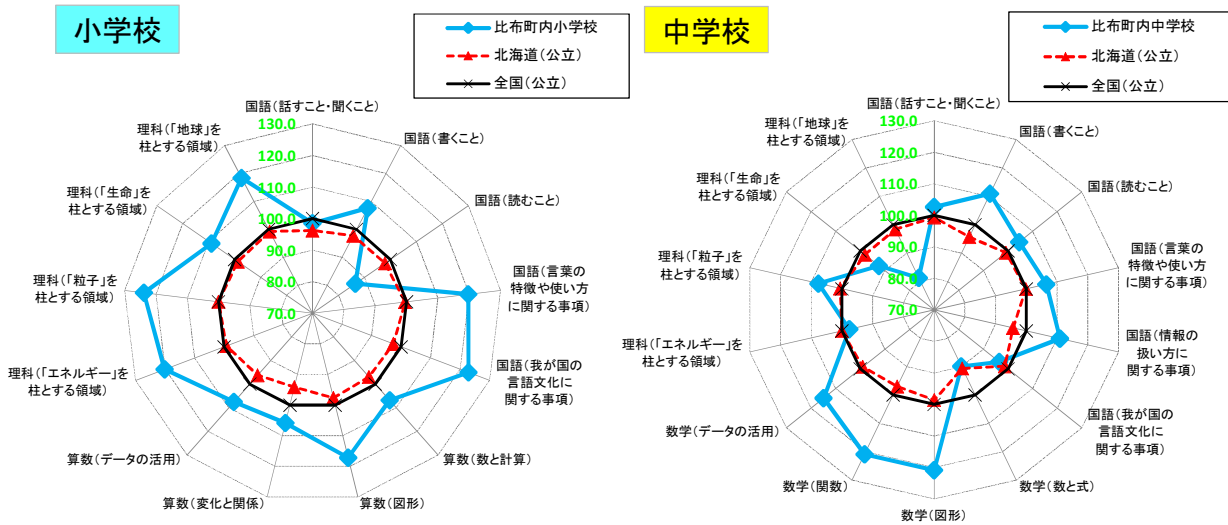
【当麻町の学力向上策】

- ◎ チャレンジテストの効果的な活用及び長期休業中の学習サポートの実施による学力向上の取組の実施
- ◎ 各学校への学習支援員及び英会話講師の配置による児童生徒の学習状況に応じた指導の充実
- ◎ 各学校への英会話講師の配置による外国語でのコミュニケーション活動の充実
- ◎ 長期休業中における1人1台端末を活用した家庭学習の取組の実施

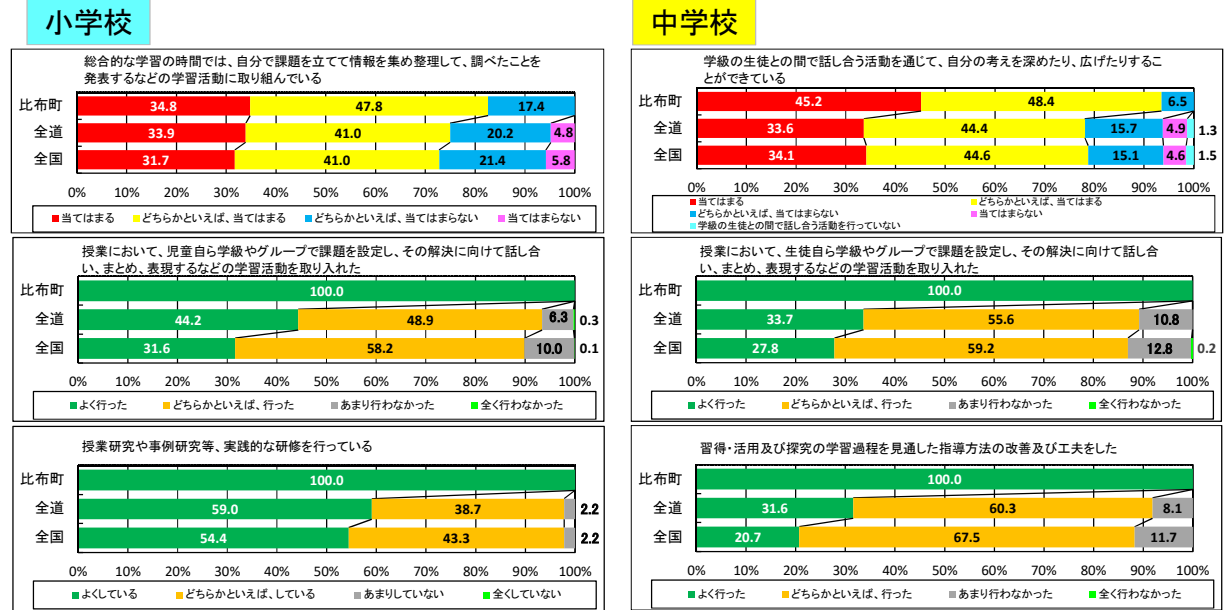
■比布町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:23人）（中学校数:1校、生徒数:31人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、授業の充実が図られ、国語ではほとんどの領域・事項で、算数及び理科では全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、探究の学習過程の充実が図られ、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、授業の充実が図られ、国語及び数学ではほとんどの領域・事項で、理科では「粒子」を柱とする領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、対話的な学びの充実が図られ、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

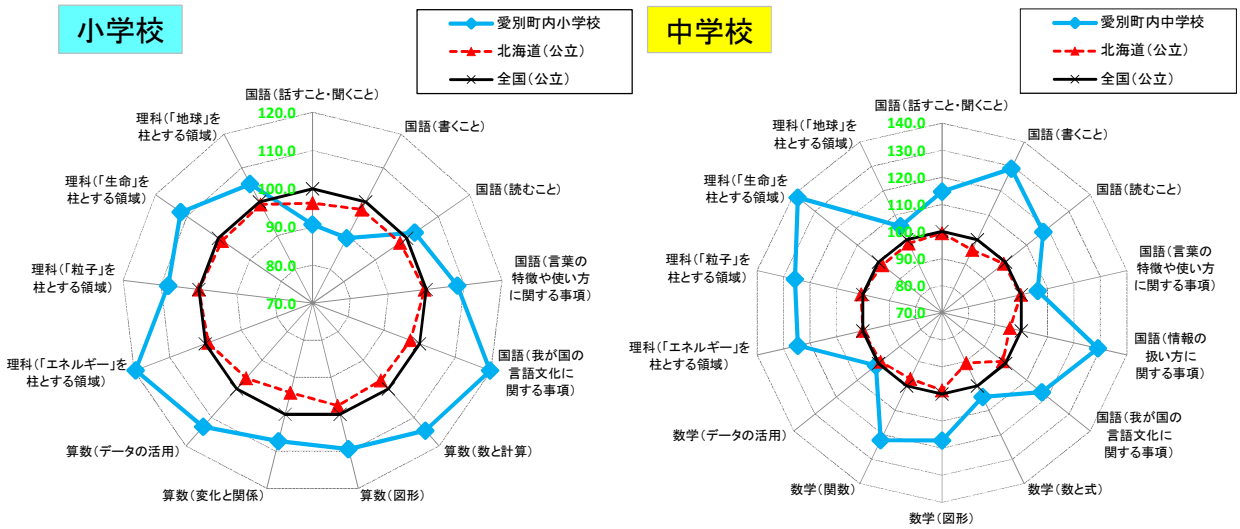
【比布町の学力向上策】

- ◎ 指導方法工夫改善加配の有効活用により、きめ細かな指導を実施
- ◎ 学習塾との連携や放課後学習支援事業の実施
- ◎ 学習支援員や非常勤英語講師の配置による指導

■ 愛別町内の状況及び学力向上策 (小学校数:1校、児童数:15人) (中学校数:1校、生徒数:15人)

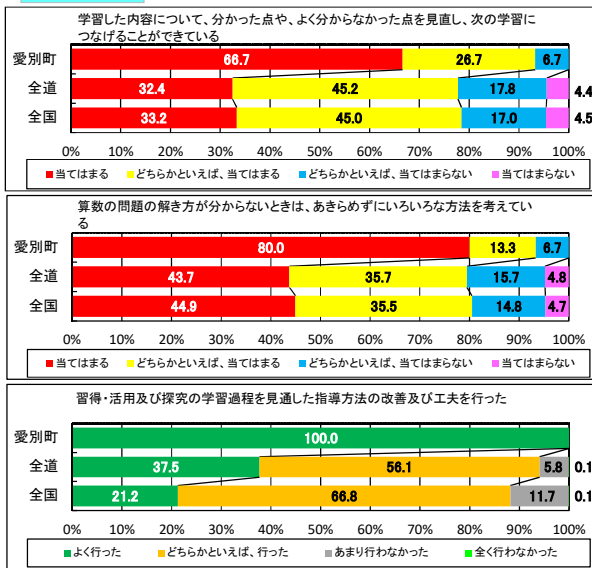
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

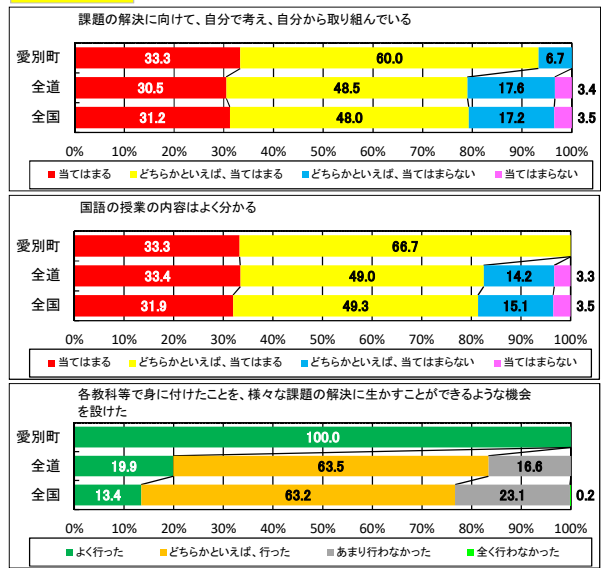


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業では、実生活の事象との関連を図ったり、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習の充実を図ったりしたことで、児童は問題の解き方が分からないときも、あきらめずにいろいろな方法を考えるようになり、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法及び工夫を行い、振り返りの充実を図ったことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童が全国の割合を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業では、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりするなどの授業の充実を図ったことで、生徒は国語の授業がよく分かるようになり、全ての領域・事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる生徒が全国の割合を上回ったと考えられる。

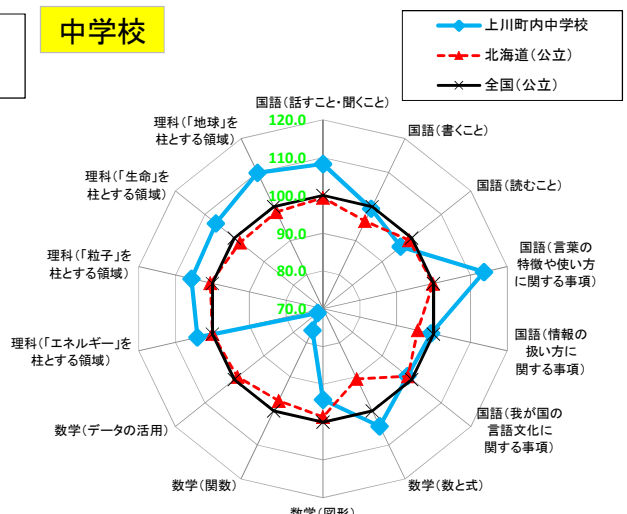
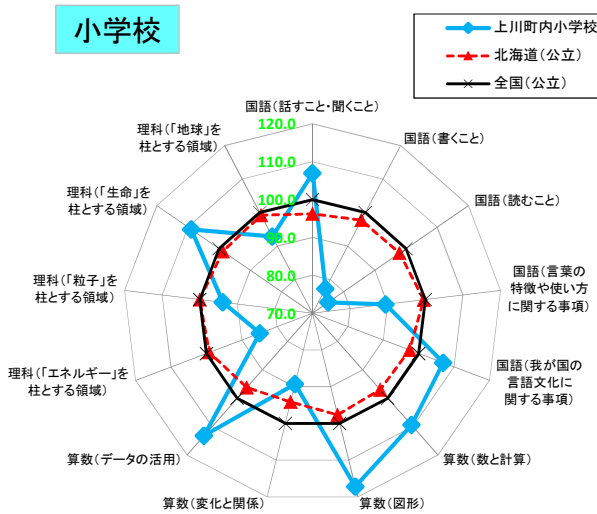
【愛別町の学力向上策】

- ◎ 学習の手引きを活用した家庭学習の習慣化と規則正しい生活習慣づくり
- ◎ 「学習サポート」や「チャレンジゼミ」「天神クラブ」など、放課後や長期休業中の学習支援
- ◎ 小中が連携した習熟度別等の少人数指導とチーム・ティーチング
- ◎ ICTを活用した授業改善

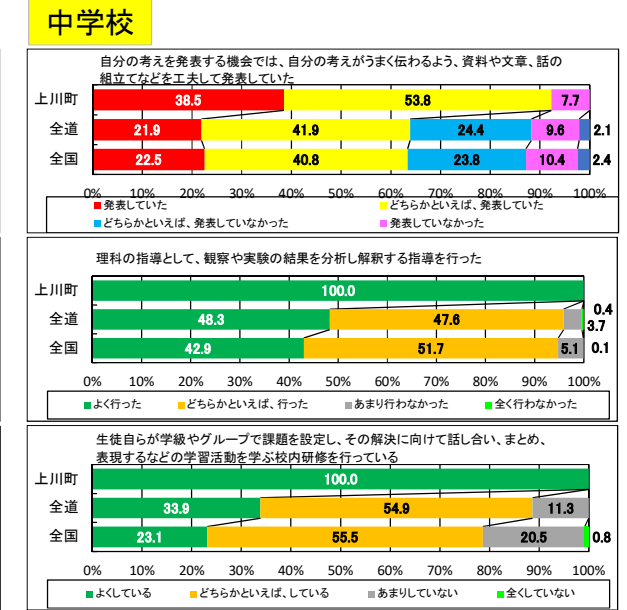
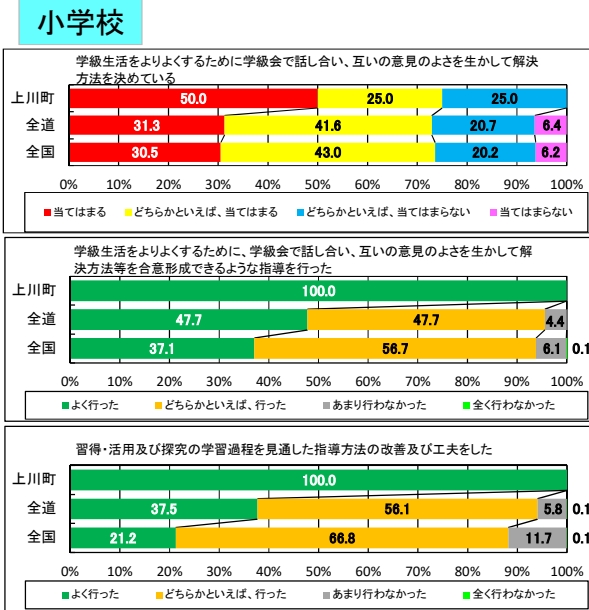
■上川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:12人）（中学校数:1校、生徒数:13人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、授業の充実が図られ、国語では「話すこと・聞くこと」の領域及び「我が国の言語文化に関する事項」で、算数ではほとんどの領域で、理科では、「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を合意形成できるような指導を行ったことにより、学級経営の充実が図られ、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

理科の指導として、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、授業の充実が図られ、理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していると回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、理科では全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒自らが学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、学習活動の充実が図られ、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

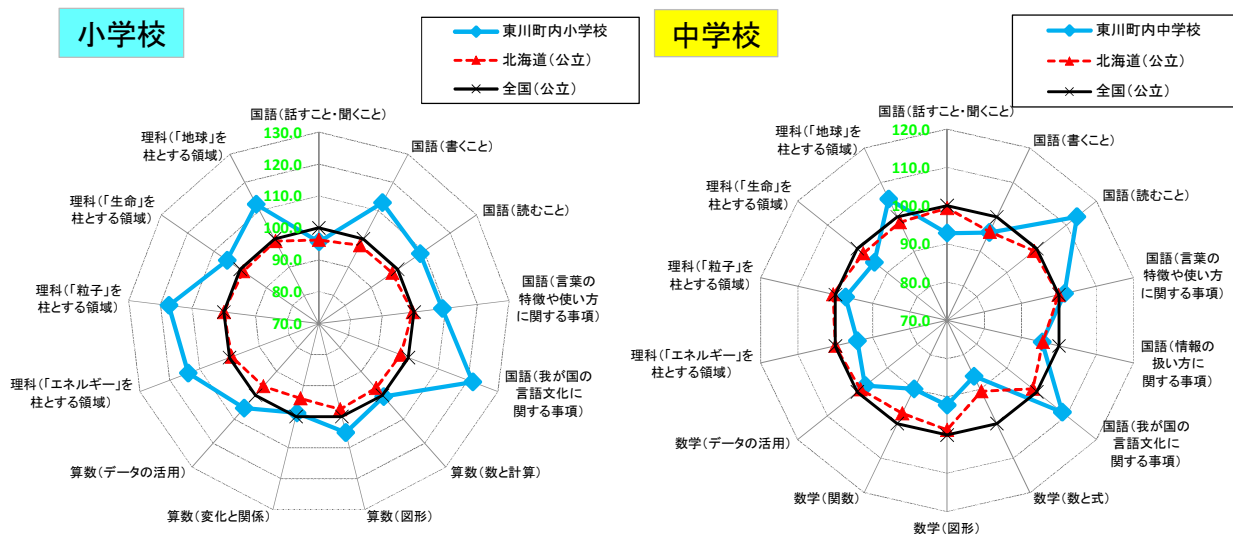
【上川町の学力向上策】

- ◎ 習熟の程度に応じた指導やチーム・ティーチングの実施などによるきめ細かな指導の充実
- ◎ 教育活動の活性化を図るため小・中学校が連携した実践交流や情報交換の実施
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用に向けた教職員の資質・能力向上のための町教育研究会などへの支援

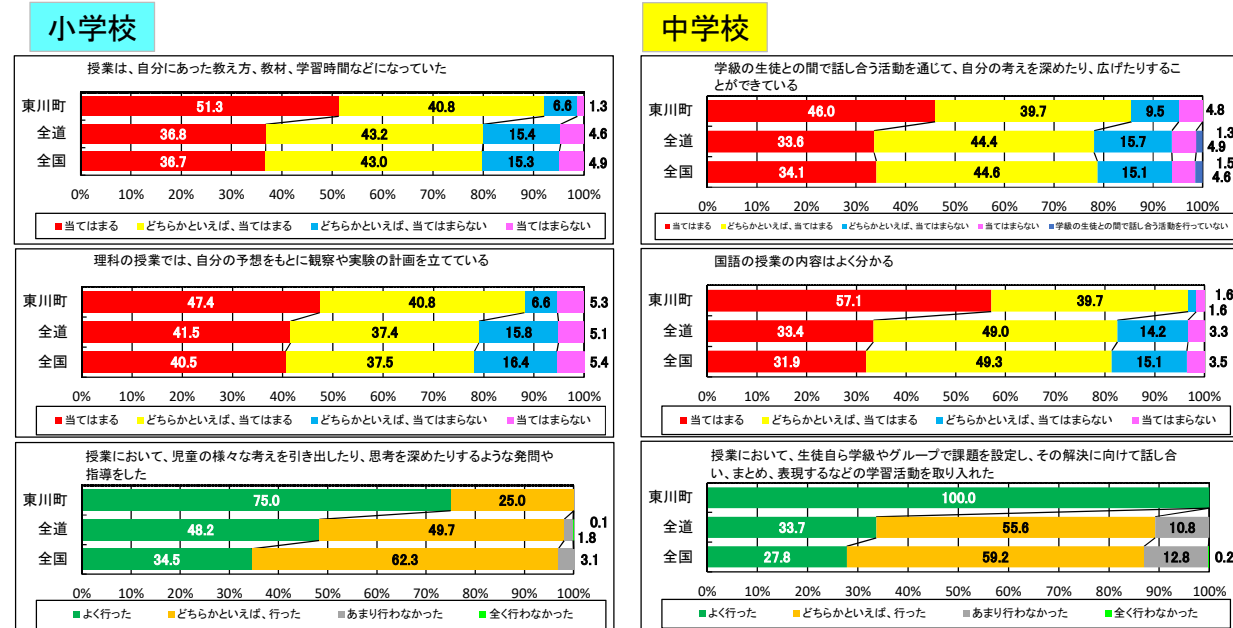
■東川町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:75人）（中学校数:1校、生徒数:63人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>理科の授業では、課題を解決するために、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる探究の過程の充実を図ったことで、理科の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている児童の割合が全国を上回ったと考えられる。</p>	<p>国語では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業の充実を図ったことで、生徒は国語の授業がよく分かるようになり、国語の「読むこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。</p>

【東川町の学力向上策】

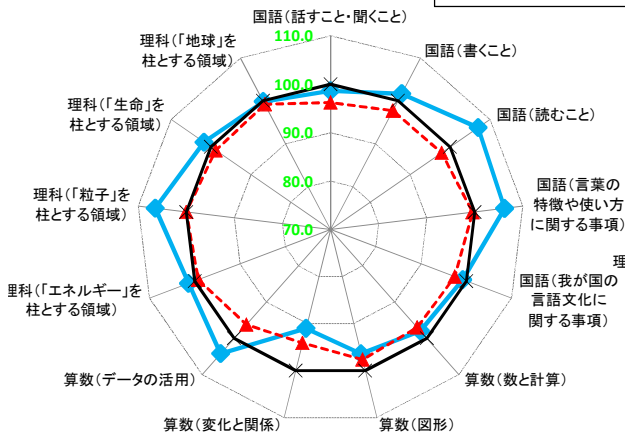
- ◎ 質の高い授業に向けた校内研修などの教職員研修の充実
- ◎ 学習支援員、教育補助員、特別支援教育支援員の配置による習熟の程度に応じた指導等の充実
- ◎ 放課後学習サポート及び「地域未来塾」による生徒の学習内容の確実な定着に向けた取組の推進

■美瑛町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:75人）（中学校数:2校、生徒数:54人）

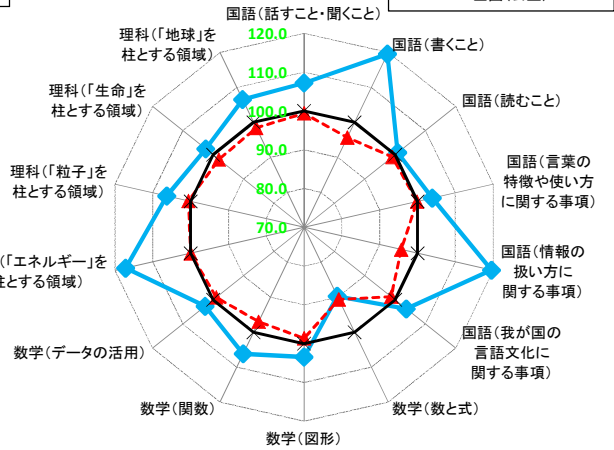
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

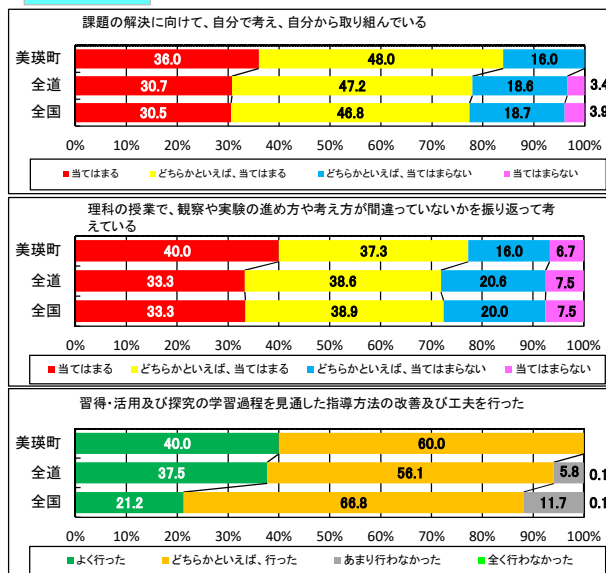


中学校

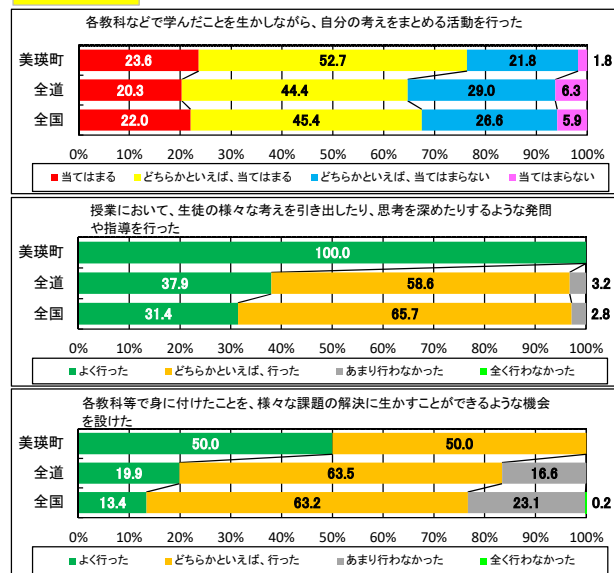


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返る活動の充実を図ったことで、「エネルギー」「粒子」「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童が全国の割合を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察する学習活動が充実し、理科の全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、主体的に各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめることができている生徒が全国の割合を上回ったと考えられる。

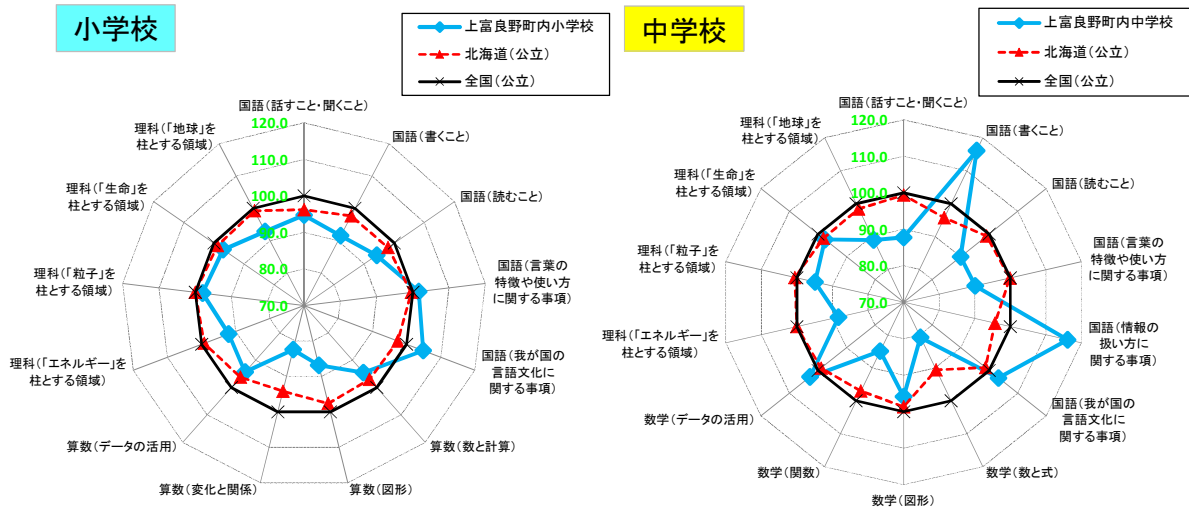
【美瑛町の学力向上策】

- ◎ 地域の教育資源を活用し、児童生徒が体験的、主体的に学ぶふるさと学習やキャリア教育の実施。児童生徒の自由な発想を生かし、豊かな創造性を育成する陶芸教室の実施。児童の学力の保障と学びへの意識の高揚を図る小学生学習ルームの実施
- ◎ 美瑛町教育推進協議会を主体として、教育課程の接続に資する中学校から小学校への出前授業や、幼小中高相互の授業参観交流の実施
- ◎ 複数の学校の児童生徒の主体的な協議を促進するオンライン会議の設定。授業や学校行事などにおいて、児童生徒がスライドやジャムボードを駆使し、グループとしての提案、表現やまとめを行う活動の充実。欠席児童生徒の学習をサポートするための授業のライブ配信

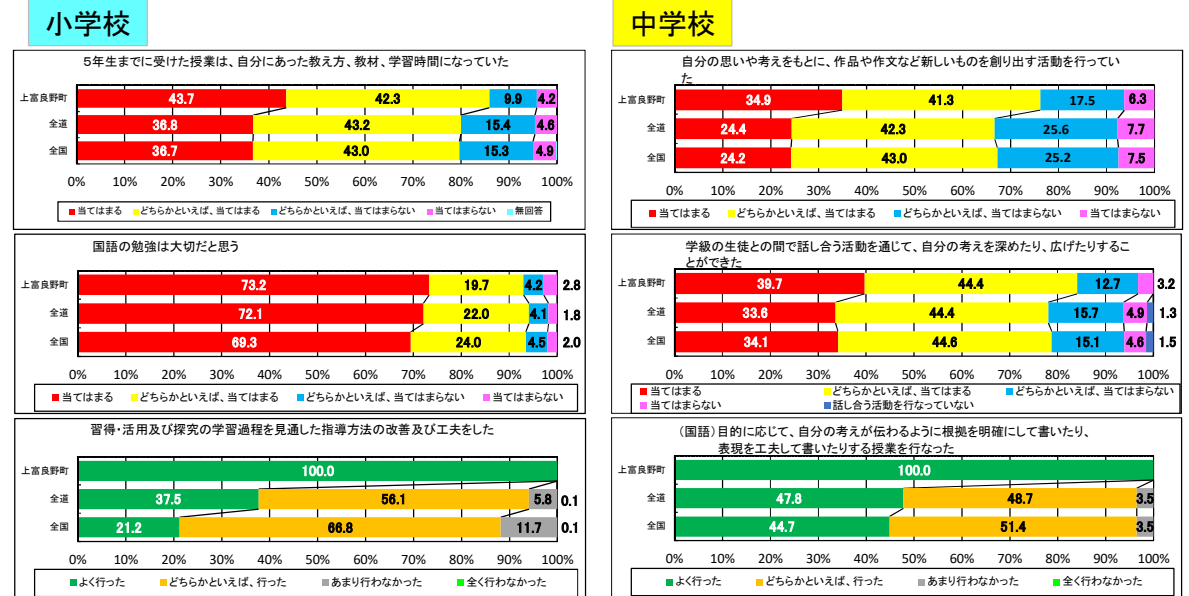
■上富良野町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:71人）（中学校数:1校、生徒数:63人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>国語の授業において、国語を学習することの意義や根拠を学んだことで、国語の勉強が大切だと思うと回答した児童の割合が全国を上回り、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学習内容の習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことで、これまでに受けた授業が、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていたと回答する児童の割合が全国を上回ったと考えられる。</p>	<p>学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする課題を解決する活動を行うことで、国語の「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったことで、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていたと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。</p>

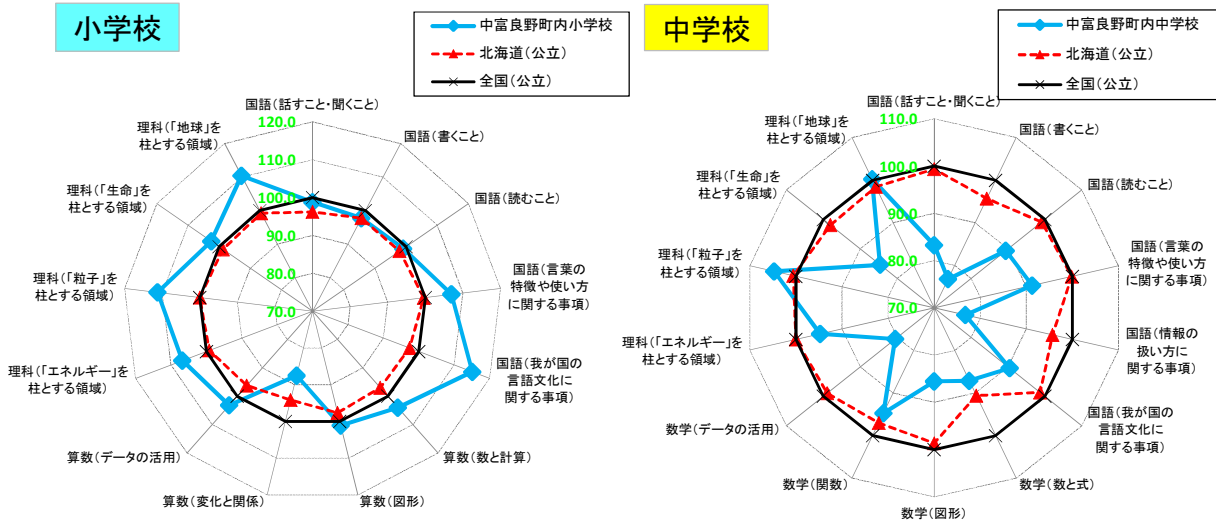
【上富良野町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校の結果を分析し、課題解決に向けた「上富良野町確かな学力の育成プラン」を作成し、具体的方策の共有と授業改善を推進
- ◎ 小・中学校ともに大型モニターを完備したこと、「意見交換・交流場面」での活用頻度が全国・全道より低いことからICT機器の効果的な活用を促進
- ◎ 小・中学校ともに「家で計画的に勉強している」割合が、全道・全国より上回っていることから、「家庭学習のすすめ」に基づき、家庭学習時間増への取組を推進

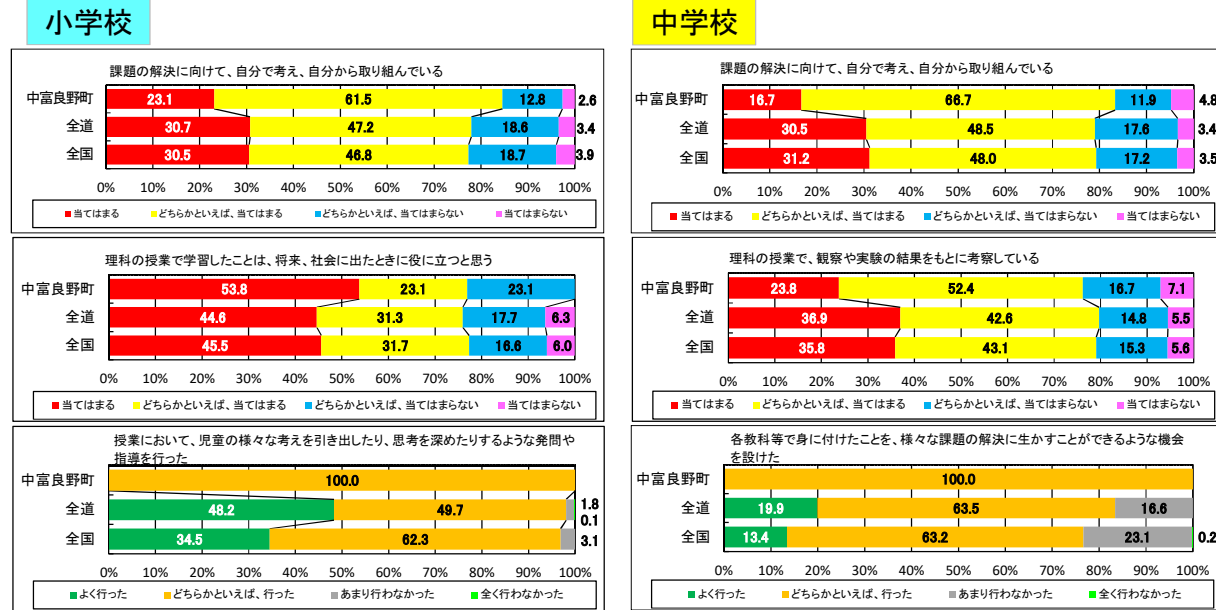
■中富良野町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:39人）（中学校数:1校、生徒数:42人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

理科の授業では、実生活における事象との関連を図った指導を充実させたことにより、将来、社会に出たときに役に立つと思うと考える児童が多くなり、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童が、全国の割合を上回ったと考えられる。

中学校

理科の授業では、観察や実験の結果を分析し解釈する指導の充実を図ったことにより、生徒は、観察や実験の結果をもとに考察するようになり、「粒子」「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいると肯定的に回答した生徒が、全国の割合を上回ったと考えられる。

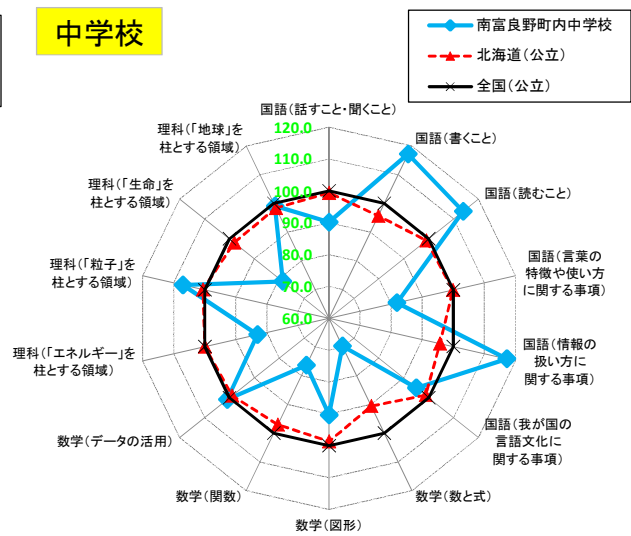
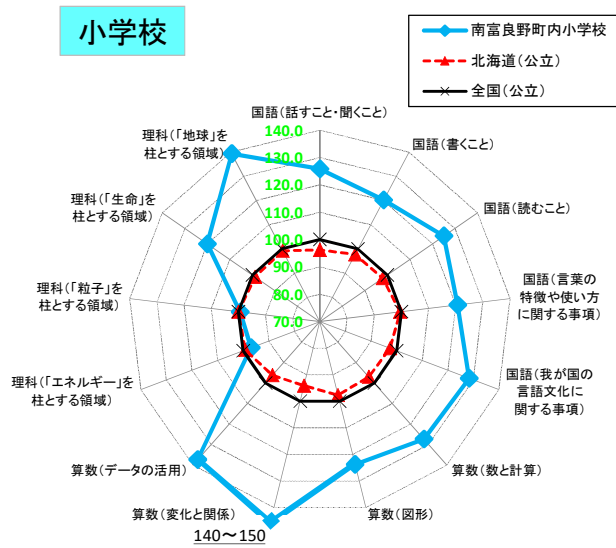
【中富良野町の学力向上策】

- ◎ 習熟度に応じた指導など基礎・基本の確実な定着のための加配教員、学習支援員等の活用による校内組織体制の確立
- ◎ 家庭との連携も含めて言語活動の充実を図るための「朝読」「家読」の取組による読書活動の推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に取り入れた授業改善や先進事例の研究の推進

■南富良野町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:6人）（中学校数:1校、生徒数:11人）

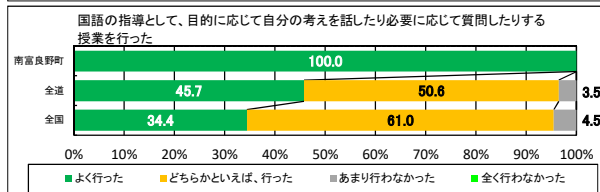
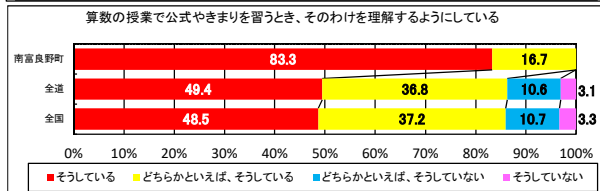
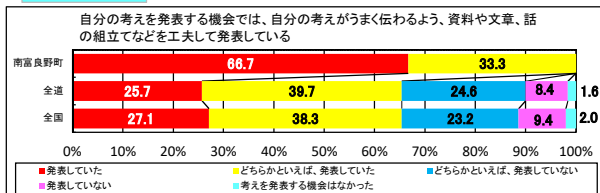
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

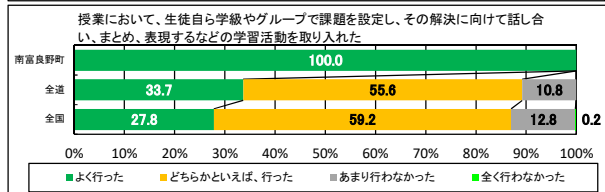
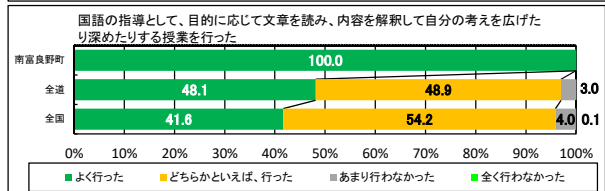
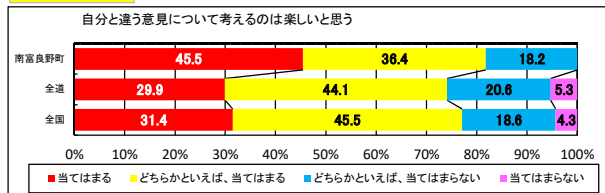


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしたこと、算数の「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で全国平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことで、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことで、国語の「情報の扱い方に関する事項」、「読むこと」「書くこと」の領域で全国平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことで、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

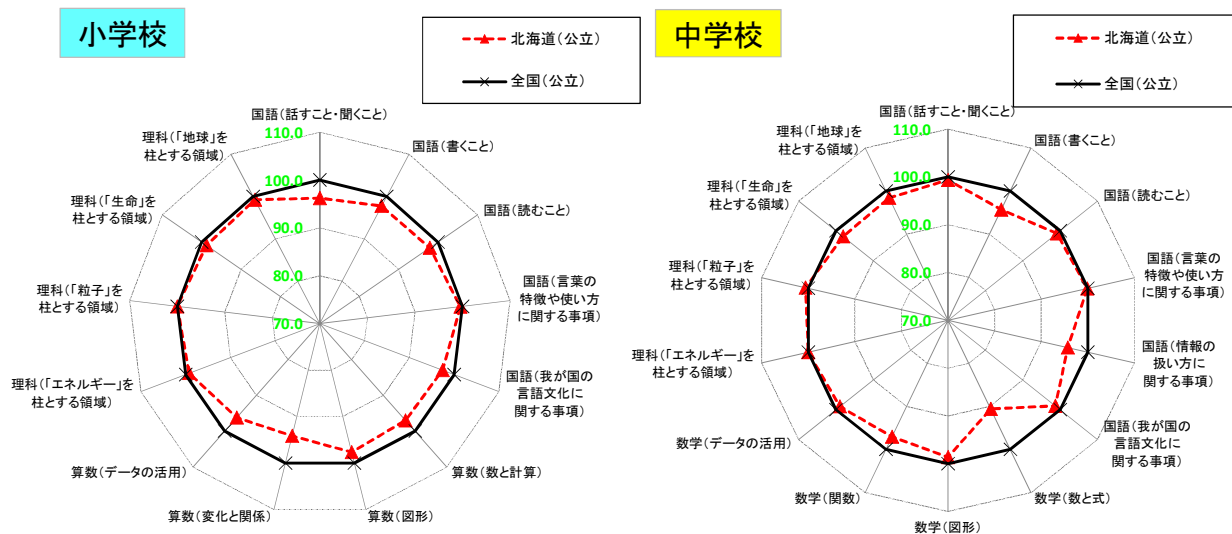
【南富良野町の学力向上策】

- ◎ タブレット学習支援ソフトを導入し、授業の補完や家庭学習の習慣化を図るため、1人1台端末を積極的に活用
- ◎ 小・中・高連携により、教員の資質能力向上を図るため、外部講師による学力向上講習の実施
- ◎ 家庭と連携した適正な学習環境づくりの推進

■ 占冠村内の状況及び学力向上策 (小学校数:2校、児童数:3人) (中学校数:2校、生徒数:7人)

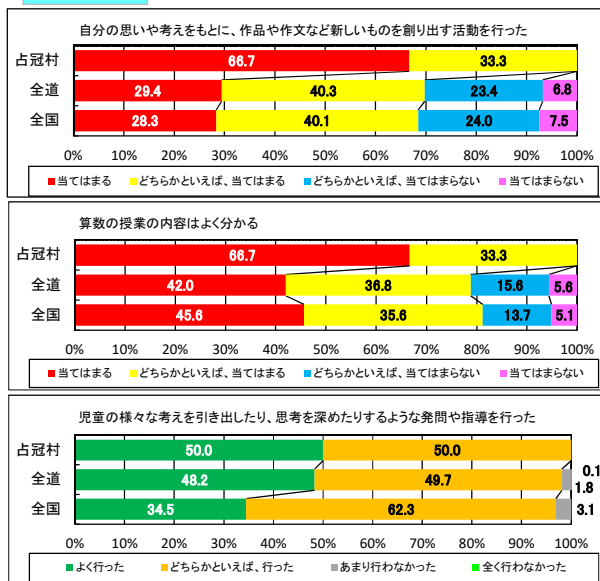
【教科全体の状況】 ※ 児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、占冠村の教科のデータは掲載していない。

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

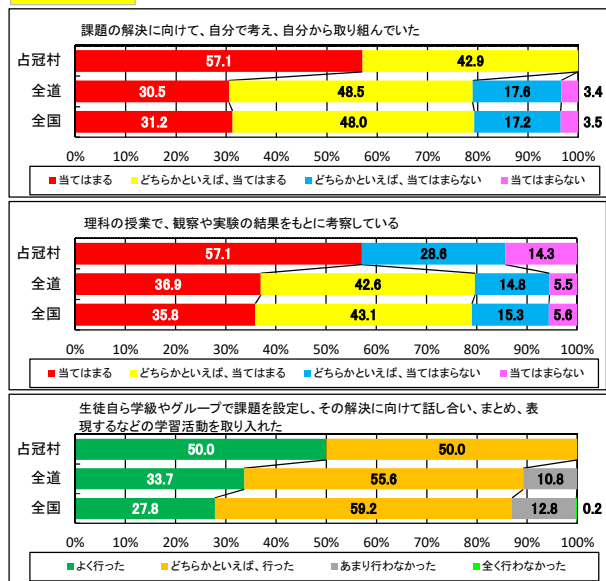


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
算数の授業では、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫して指導したことにより、児童は授業内容の理解が深まり、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動に取り組んでいる児童が、全国の割合を上回ったと考えられる。

中学校
理科の授業では、観察や実験の結果を分析し解釈する指導の充実を図ったことにより、生徒は、観察や実験の結果をもとに考察するようになり、「生命」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する指導の充実を図ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる生徒が、全国の割合を上回ったと考えられる。

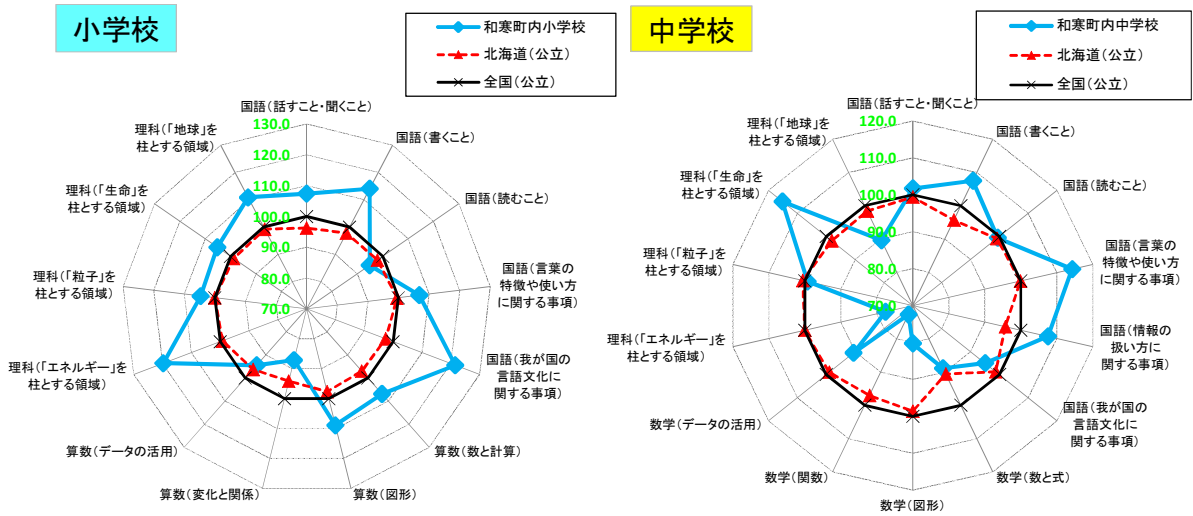
【占冠村の学力向上策】

- ◎ 義務教育9年間を見通した教育課程の編成等を行い小中連携教育を推進
- ◎ 持続性のある教育の推進に向け、小学校と中学校合同の連携会議を開催
- ◎ 1人1台端末の効果的な活用に向けた村独自の端末利活用に関するルールの設定及び家庭学習での活用

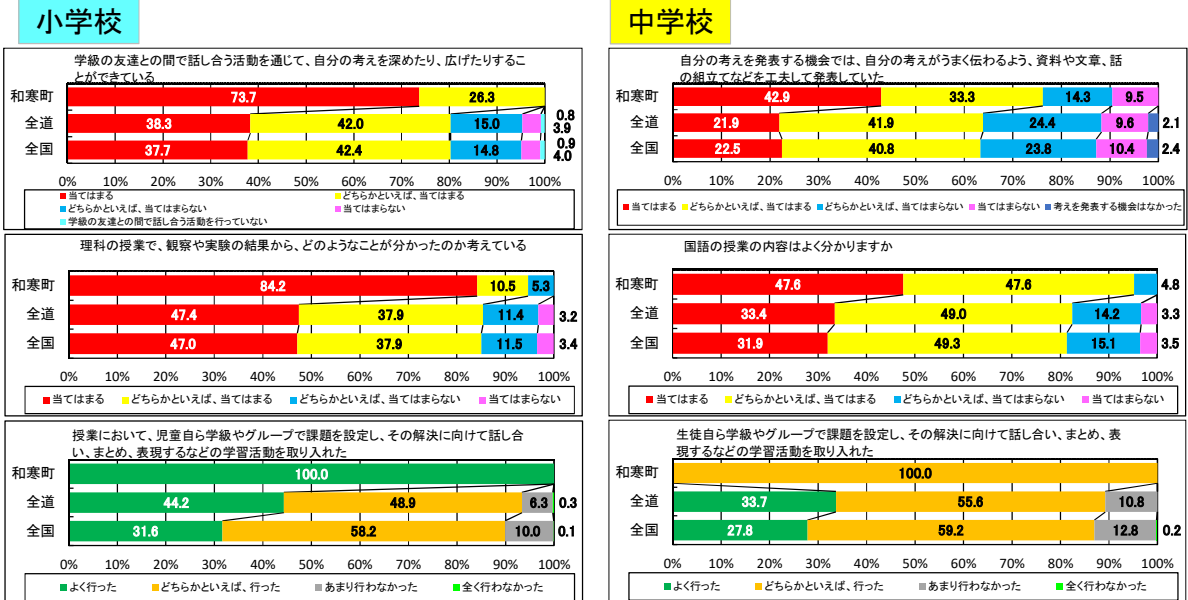
■和寒町内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：19人）（中学校数：1校、生徒数：20人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのかを考える活動の充実を図ったことで、全ての領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりするなどの授業の充実を図ったことで、生徒は国語の授業がよく分かるようになり、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が全国の割合を上回ったと考えられる。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している生徒が全国の割合を上回ったと考えられる。

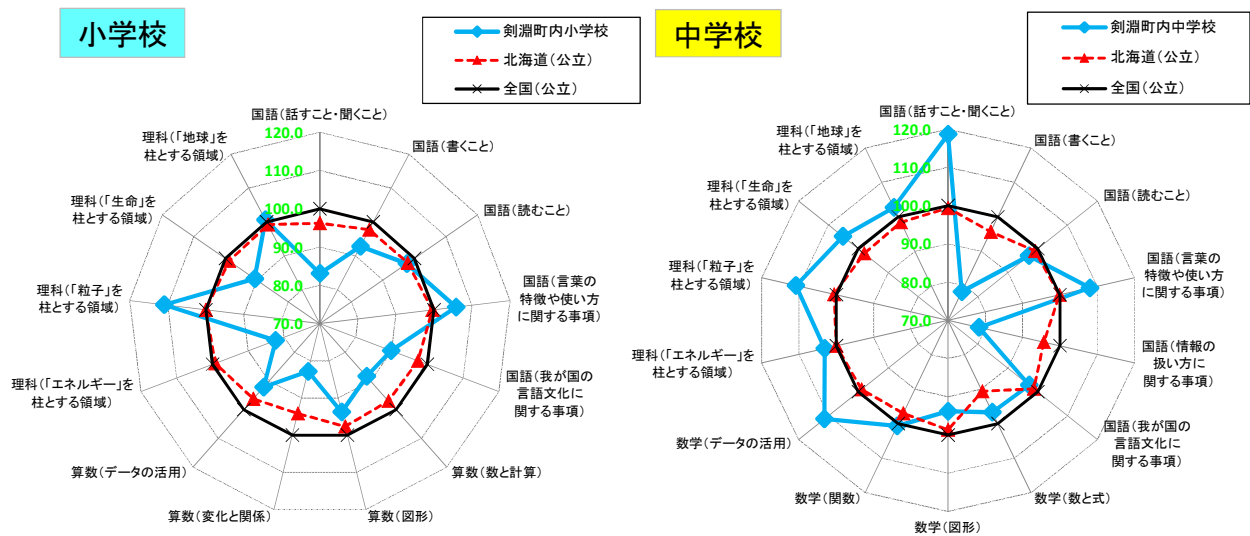
【和寒町の学力向上策】

- ◎ 指導体制の工夫(T・T、少人数指導、学力向上指導員等)や学習サポートの取組(学校・町教委実施)による基礎学力の向上
- ◎ 各種研修(町教研、校内研、授業改善推進チーム)等を通じた教職員の情報共有と授業力の向上
- ◎ 1人1台端末の活用による授業改善と家庭学習(臨時休業時の対応を含む)の充実

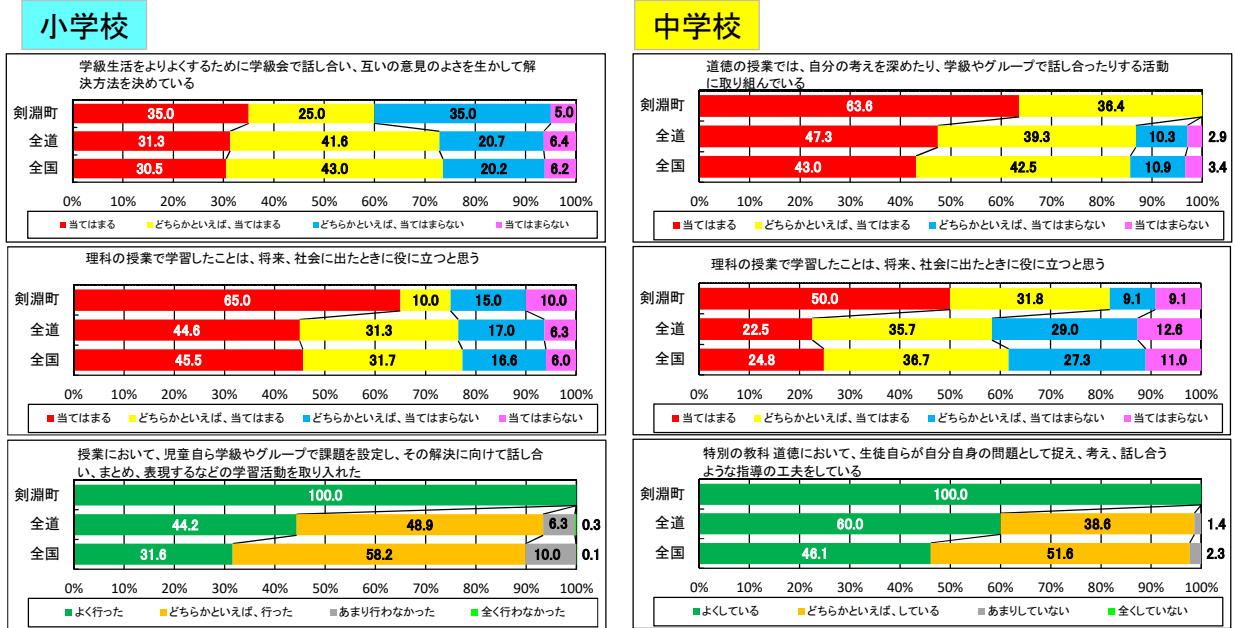
■ 剣淵町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
<p>理科の授業において、学習した内容を生活場面で一般化することで、将来、社会に出たときに役に立つと思うと考える児童が多くなり、理科の「粒子」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れることで、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。</p>	<p>理科の授業において、学習した内容を生活場面で一般化することで、将来、社会に出たときに役に立つと思うと考える生徒が多くなり、理科の「粒子」「エネルギー」「生命」「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような機会を設けたことで、道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。</p>

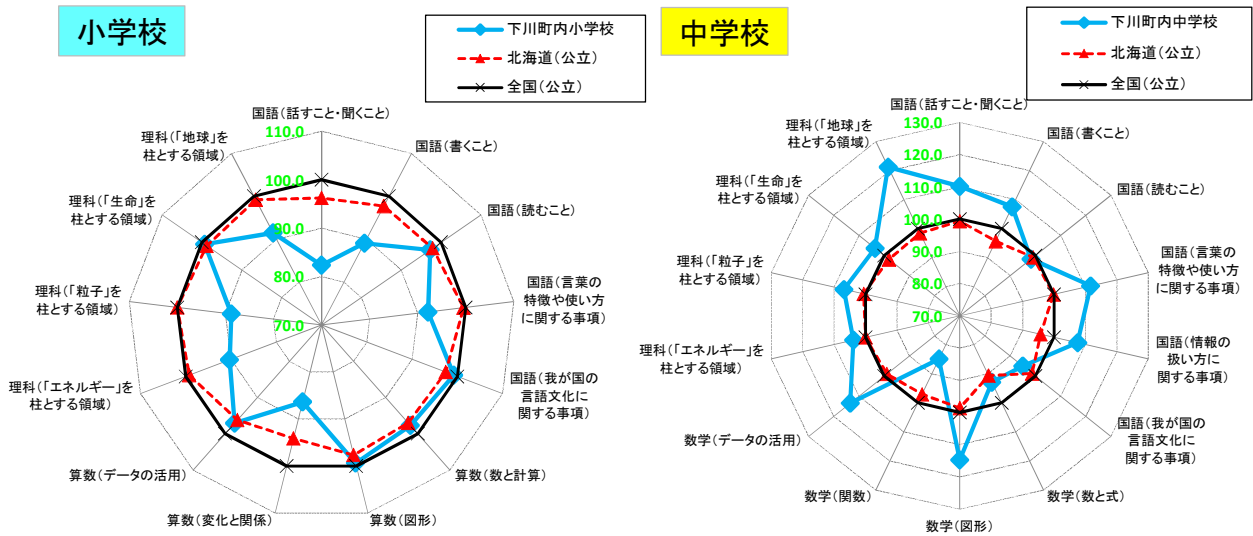
【剣淵町の学力向上策】

- ◎ 指導方法工夫改善計画に基づく習熟度別学習指導の充実
- ◎ ICT端末上で使える学習ドリルを活用した授業の推進
- ◎ 剣淵町小中高連携教育協議会教科部会における相互授業参観や授業改善に向けた部会協議の推進

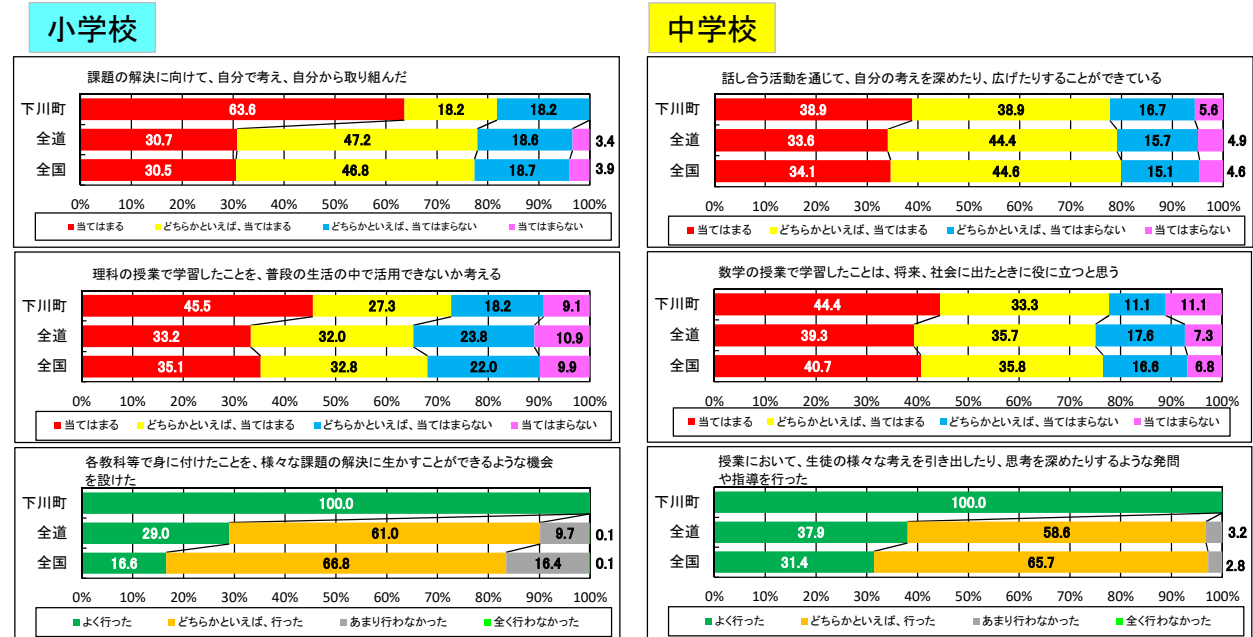
■下川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:18人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
理科の授業では、観察や実験の結果を整理し考察する指導の充実を図ったことにより、児童が学んだことを生活の中で活用できないか考えるようになり、「生命」を柱とする領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	数学の授業では、実生活における事象との関連を図ったことにより、生徒が数学を学ぶことの重要性や有用性を実感することができ、「図形」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる児童が、全国の割合を上回ったと考えられる。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導の充実を図ったことにより、話し合うことを通じて自分の考えを広げたり深めたりしている生徒が、全国の割合を上回ったと考えられる。

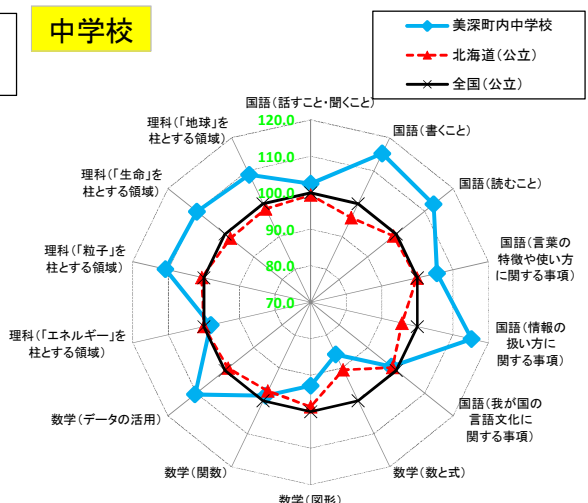
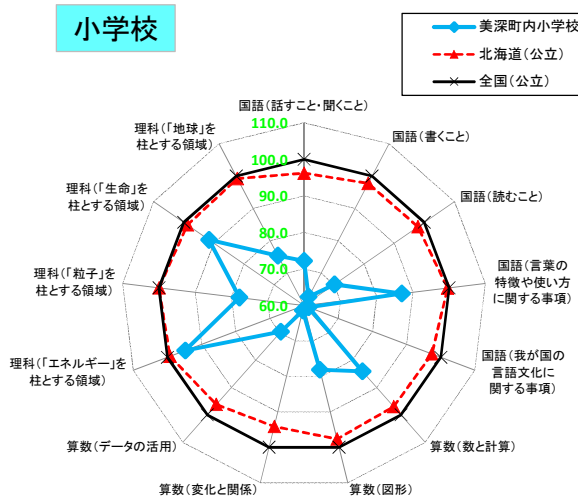
【下川町の学力向上策】

- ◎ 小中連携した学習規律の徹底と授業展開
- ◎ 前時の振り返りや課題解決に向けた思考を深める1人1台端末の活用
- ◎ 家庭学習の習慣化及び充実に向けた町独自の取組「ウィークエンドスクール」の実施

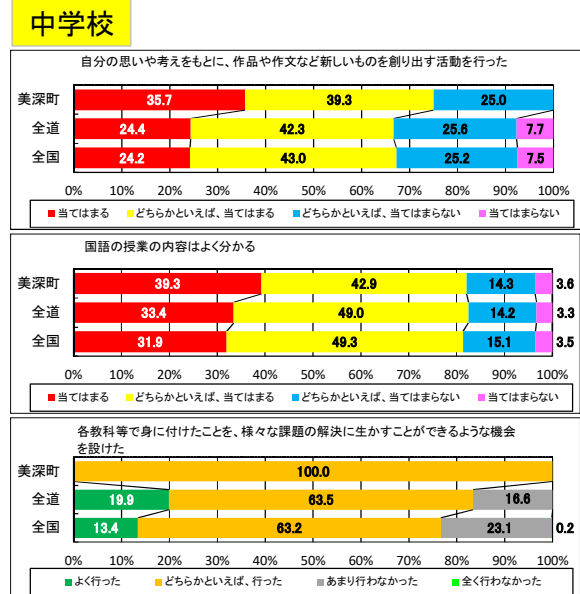
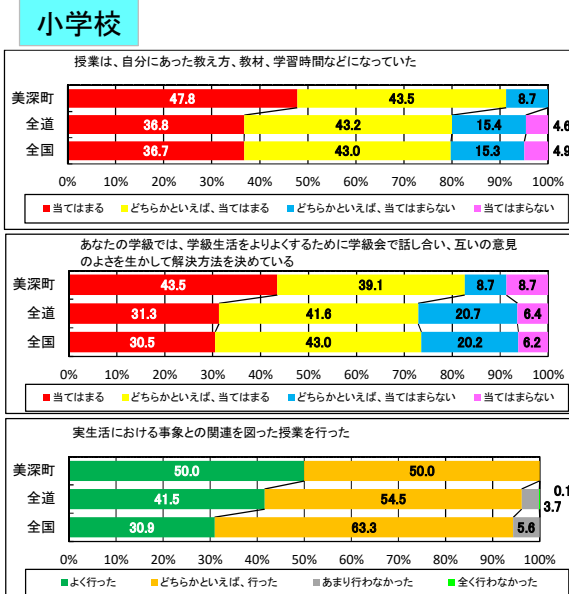
■美深町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:23人）（中学校数:2校、生徒数:28人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町内の学校において、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行ったことにより、友達と協力しながら、学級生活をよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると考える児童の割合が、全国を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童のよ点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意味や価値を実感できるようにしたことにより、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、生徒は国語の授業の内容がよく分かるようになり、多くの領域・事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業において、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出すことができている生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

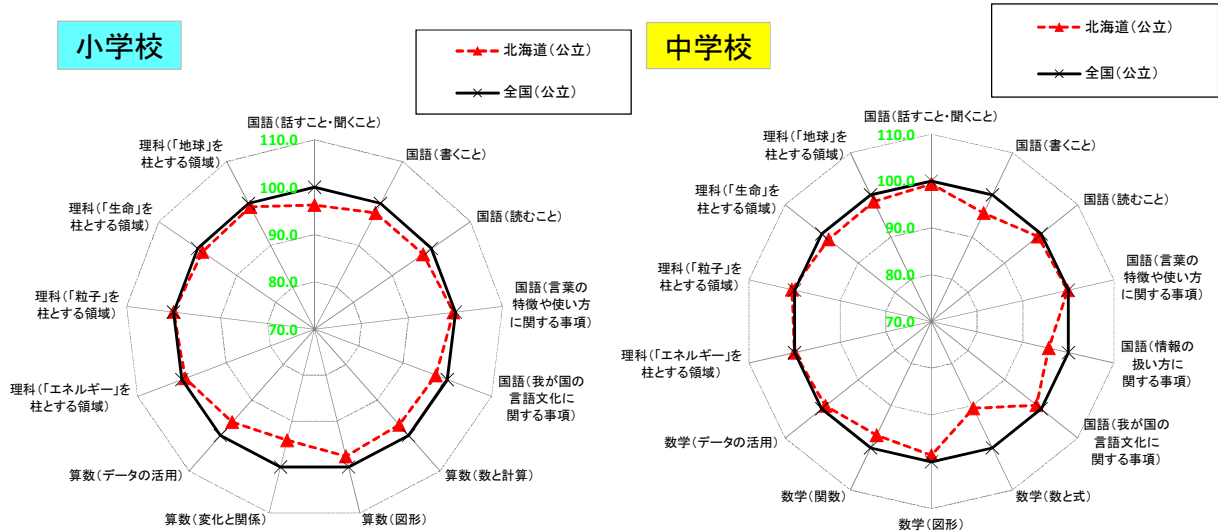
【美深町の学力向上策】

- ◎ 学校運営協議会を通じ、地域の声を生かした教育活動の推進
- ◎ 習熟度別指導やティーム・ティーチング、更にはリーディングスキルテスト・漢字検定を活用した指導及び学力向上の推進
- ◎ 幼・小・中・高が連携した指導を行い、ALT等の人材を有効活用した外国語教育の推進
- ◎ 1人1台端末を活用した児童生徒に合わせた効果的な学習の推進

■音威子府村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:2人）（中学校数:1校、生徒数:2人）

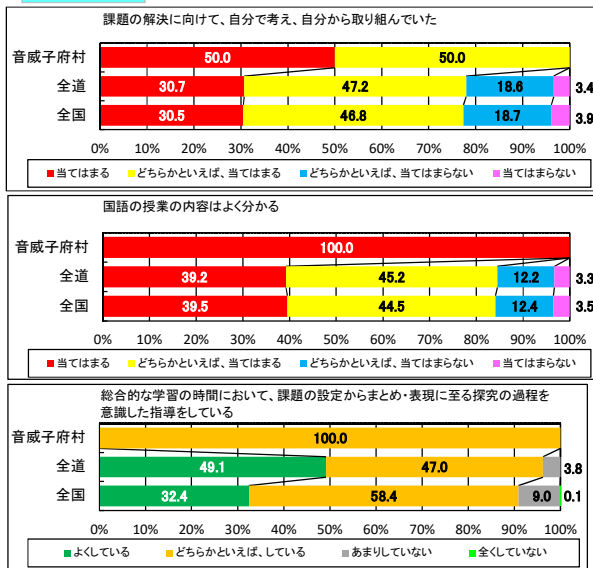
【教科全体の状況】※児童生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、音威子府村の教科のデータは掲載していない。

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

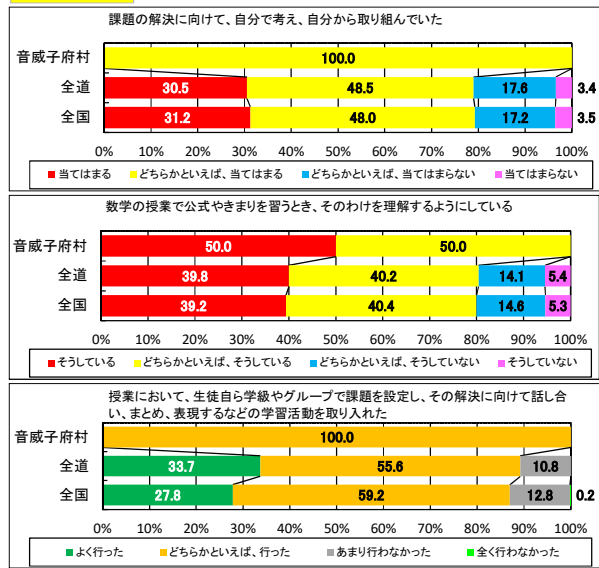


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりするなどの授業を工夫して行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行ったことにより、各教科等においてもその学び方を生かして、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組もうとする児童の割合が高くなったと考えられる。

中学校

数学の授業では、公式やきまりについて、その根拠を理解できるように指導を工夫したことにより、生徒は根拠を考えながら学習するようになり、概念的な知識の理解が深まったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、各教科等において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組もうとする生徒の割合が高くなったと考えられる。

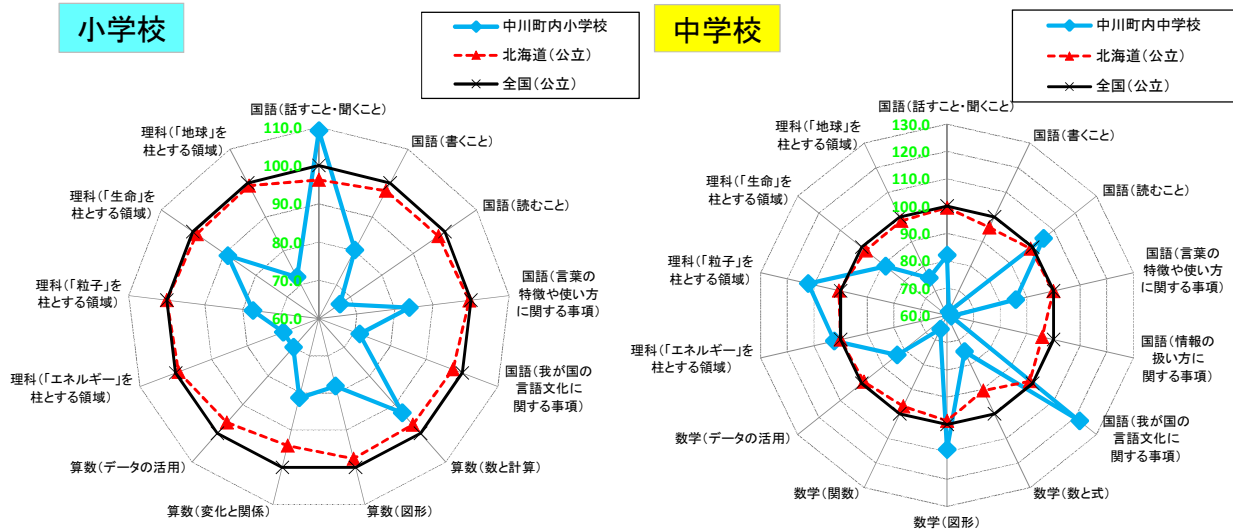
【音威子府村の学力向上策】

- ◎ 中学校教員による小学校への乗り入れ授業の実施(理科)
- ◎ 学力検査を年に2回実施。(4月:NRTを実施し、学力改善目標シートを作成。8月中間評価、改善策の検討。12月:CRTを実施し、取組の評価を行う。)
- ◎ 1人1台端末でデジタル教材を活用した個に応じた課題の取組の推進

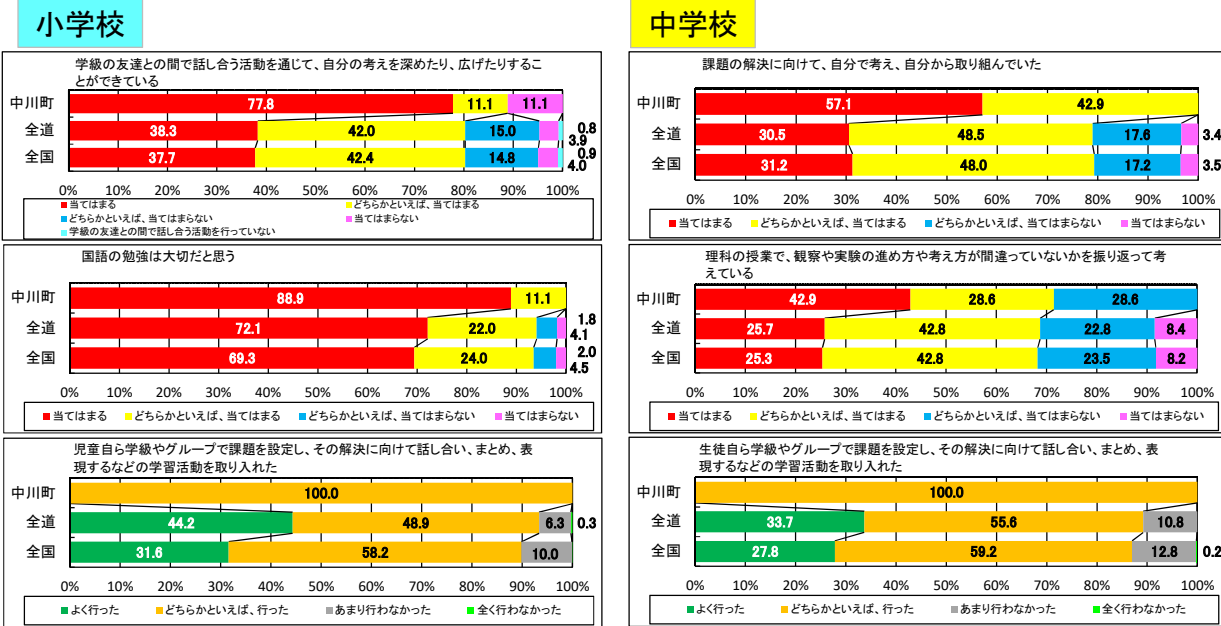
■中川町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:9人）（中学校数:1校、生徒数:7人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語では、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業の充実を図ったことで、児童は国語の勉強は大切だと思うようになり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

理科の授業では、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考える活動の充実を図ったことで、理科の「エネルギー」「粒子」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

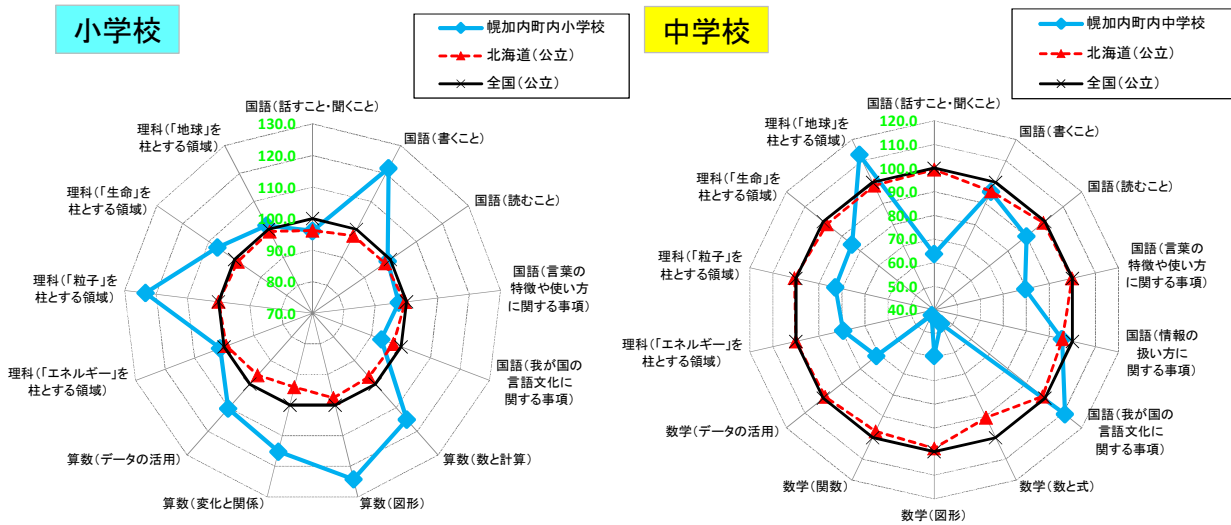
【中川町の学力向上策】

- ◎ 学習内容の確実な定着を図るため、朝・放課後サポート学習での補習や追試の実施
- ◎ ボランティアを活用した放課後学習支援「なかがわ塾」による基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた取組の充実
- ◎ 義務教育9年間を見通した教育課程の編成など、小中連携教育の推進
- ◎ 中川町学校教育情報化検討会議を設置し、ICT機器の効果的な活用による授業の質的向上に向けた取組の推進

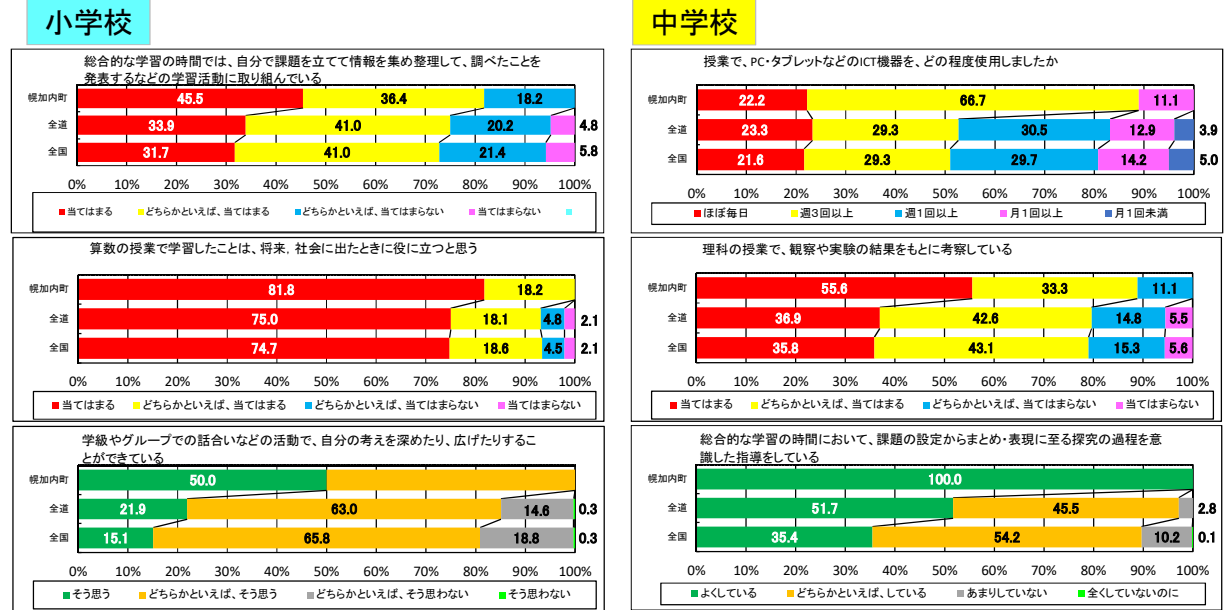
■幌加内町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:11人）（中学校数:1校、生徒数:9人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の授業において、学習した内容を生活場面で一般化することで、将来、社会に出たときに役に立つと思うと考える児童が多くなり、算数の「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	理科の授業において、観察や実験の結果をもとに考察し、課題を解決する過程の充実を図ったことで、理科の「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を多くしたことで、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組むことができる児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたり、主体的な学びを進める上で、教材としてPC・タブレットなどのICT機器を活用したりしたことで、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用している生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【幌加内町の学力向上策】

- ◎ 目標と振り返りの位置づけ、質の向上に向けた取組を推進
- ◎ 1人1台端末を効果的に活用した授業づくりに係る研修会の実施
- ◎ 小規模校の特性を生かした一人一人のきめ細やかな指導の充実